コマンドラインリファレンス

Amazon CloudWatch

API バージョン 2010-08-01

Copyright © 2025 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon CloudWatch: コマンドラインリファレンス

Copyright © 2025 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスはAmazon 以外の製品およびサービスに使用することはできません。また、お客様に誤解を与える可能性がある形式で、または Amazon の信用を損なう形式で使用することもできません。Amazon が所有していない他のすべての商標は、それぞれの所有者の所有物であり、Amazon と提携、接続、または後援されている場合とされていない場合があります。

Table of Contents

ようこそ 1
コマンドラインインターフェイスをセットアップする 2
コマンドラインインターフェイスリファレンス 3
mon-cmd 3
説明 3
構文 4
出力 4
例 4
関連トピック 5
mon-delete-alarms 5
説明 5
構文 5
オプション 5
一般的なオプション 6
出力 11
例 12
関連トピック 12
mon-describe-alarm-history 12
説明 12
構文 13
オプション 13
一般的なオプション 14
出力 19
例 20
関連トピック 20
mon-describe-alarms 21
説明 21
構文 21
オプション 21
一般的なオプション 22
出力 27
例 28
関連トピック 29
mon-describe-alarms-for-metric 29

説明 29
構文 29
オプション 30
一般的なオプション 34
出力 39
例 40
関連トピック 41
mon-disable-alarm-actions 41
説明 41
構文 41
オプション 42
一般的なオプション 42
出力 47
例 48
関連トピック 48
mon-enable-alarm-actions 48
説明 48
構文 48
オプション 49
一般的なオプション 49
出力 54
例 55
関連トピック 55
mon-get-stats 55
説明 55
構文 56
オプション 56
一般的なオプション 60
出力 65
例 66
関連トピック 67
mon-list-metrics 68
説明 68
構文 68
オプション 68
一般的なオプション 70

出力 75
例 75
関連トピック 76
mon-put-data 77
説明 77
構文 77
オプション 77
一般的なオプション 81
出力 86
例 87
関連トピック 87
mon-put-metric-alarm 88
説明 88
構文 88
オプション 88
一般的なオプション 97
出力 102
例 103
関連トピック 103
mon-set-alarm-state 103
説明 103
構文 104
オプション 104
一般的なオプション 105
出力 110
例 110
関連トピック 110
mon-version 111
説明 111
構文 111
出力 111
例 111
関連トピック 112
ドキュメント履歴 113

ようこそ

2017 年 11 月 7 日時点で、CloudWatch コマンドラインインターフェイスはサポート対象外となり、新しい機能の追加はありません。ダウンロードすることはできません。CloudWatch CLI リファレンスドキュメントは引き続き利用できます。

代わりに AWS Command Line Interface を使用してください。AWS CLI は、CloudWatch のすべての既存および新規コマンドを搭載し、更新されている唯一のコマンドラインインターフェイスです。AWS CLI のインストールおよび使用の詳細については、AWS Command Line Interface のインストールを参照してください。AWS CLI の CloudWatch コマンドの詳細については、「cloudwatch」を参照してください。

コマンドラインインターフェイスをセットアップする

2017 年 11 月 7 日時点で、CloudWatch コマンドラインインターフェイスはサポート対象外となり、新しい機能の追加はありません。ダウンロードすることはできません。CloudWatch CLI リファレンスドキュメントは引き続き利用できます。

代わりに AWS Command Line Interface を使用してください。AWS CLI は、CloudWatch のすべての既存および新規コマンドを搭載し、更新されている唯一のコマンドラインインターフェイスです。AWS CLI のインストールおよび使用の詳細については、AWS Command Line Interface のインストールを参照してください。AWS CLI の CloudWatch コマンドの詳細については、「cloudwatch」を参照してください。

Amazon CloudWatch コマンドラインインターフェイスリファレンス

AWS には 2 セットのコマンドラインツールがあり、どちらも CloudWatch をサポートしています。このセクションでは、CloudWatch コマンドラインインターフェイス (CLI) について説明します。

2017 年 11 月 7 日時点で、この CloudWatch コマンドラインインターフェイスはサポート対象外となり、新しい機能の追加はなく、ダウンロードすることはできません。Windows、Mac、および Linux で CloudWatch を制御および自動化するには、代わりに AWS Command Line Interface を使用してください。さらに、PowerShell 環境におけるスクリプティングをご利用になる方のために、AWS Tools for Windows PowerShell も提供しています。

コマンド

- mon-cmd
- mon-delete-alarms
- mon-describe-alarm-history
- mon-describe-alarms
- mon-describe-alarms-for-metric
- mon-disable-alarm-actions
- mon-enable-alarm-actions
- mon-get-stats
- mon-list-metrics
- mon-put-data
- mon-put-metric-alarm
- mon-set-alarm-state
- mon-version

mon-cmd

説明

他のすべての CloudWatch コマンドを一覧表示します。コマンド別のヘルプを表示するには、次のコマンドを使用します。

```
commandname --help
```

構文

mon-cmd

出力

このコマンドは、すべての Amazon CloudWatch コマンドをテーブルに表示します。

Amazon CloudWatch CLI は、stderr でエラーを表示します。

例

リクエストの例

この例には、すべての Amazon CloudWatch コマンドが一覧表示されています。

```
mon-cmd

Command Name                      Description

------------                      -----------

help
mon-delete-alarms                 Delete alarms.

mon-describe-alarm-history        Show the history of alarm transitions and actions
 taken.
mon-describe-alarms               List alarms and show detailed alarm configuration.

mon-describe-alarms-for-metric    Show alarms for a given metric.
mon-disable-alarm-actions         Disable all actions for a given alarm.

mon-enable-alarm-actions          Enable all actions for a given alarm.

mon-get-stats                     Get metric statistics.

mon-list-metrics                  List user's metrics.
mon-put-data                      Put metric data.
mon-put-metric-alarm              Create a new alarm or update an existing one.
```

```
mon-set-alarm-state                Manually set the state of an alarm.

mon-version                        Prints the version of the CLI tool and API.

For help on a specific command, type '<commandname> --help'
```

関連トピック

ダウンロード

- コマンドラインインターフェイスをセットアップする

関連コマンド

- mon-version Command

mon-delete-alarms

説明

指定されたアラームを削除します。

構文

mon-delete-alarms [AlarmNames [*AlarmNames* ...]] [Common Options]

オプション

名前	説明
AlarmNames AlarmNames	削除するアラームの名前 (名前ごとにスペースで区切ります)。この値は --alarm-name を使用して設定することもできます。 タイプ: 引数 有効値: アラーム名。文字長は 1 から 255 の間である必要があります。

名前	説明
	デフォルト: N/A 必須: はい
`-f, --force`	確認のメッセージを表示せずにアラームを削除します。デフォルトでは、`mon-delete-alarms` コマンドは、アラームを削除する前に確認のメッセージを表示します。 タイプ: フラグ 有効値: N/A デフォルト: 各アラームを削除する前にメッセージが表示されます。 必須：いいえ

一般的なオプション

名前	説明
`--aws-credential-file VALUE`	AWS 認証情報を含むファイルの場所。環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` を使用して、この値を設定できます。環境変数またはパスで指定する認証情報ファイルの場所は、実在のものでなければなりません。存在しない場合、リクエストは失敗します。すべての CloudWatch リクエストに、アクセスキー ID とシークレットアクセスキーを使用して署名する必要があります。 型: 文字列 有効な値: アクセスキー ID とシークレットアクセスキーを含むファイルへの有効なパス。

名前	説明
	デフォルト: 設定されている場合は、環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` を使用します。
`-C, --ec2-cert-file-path VALUE`	リクエストに署名するための EC2 証明書ファイルの場所。環境変数 `EC2_CERT` を使用して、この値を指定できます。 型: 文字列 有効な値: Amazon EC2 または AWS Identity and Access Management によって提供される PEM ファイルへの有効なファイルパス。 デフォルト: 設定されている場合は、環境変数 `EC2_CERT` を使用します。
`--connection-timeout VALUE`	接続タイムアウト値 (秒)。 型: 整数 有効な値: 任意の正の整数。 デフォルト: 30
`--delimiter VALUE`	長い結果を区切って表示する際に使用する区切り記号。 型: 文字列 有効な値: 任意の文字列。 デフォルト: コンマ (,)

名前	説明
`--headers`	表形式の結果または区切られた結果を表示する場合に、列ヘッダーを含めます。XML 形式の結果を表示する場合に、サービスリクエストから HTTP ヘッダーを返します (該当する場合)。 タイプ: フラグ 有効な値: 存在する場合は、ヘッダーを表示します。 デフォルト: `--headers` オプションは、デフォルトでオフになっています。
`-I, --access-key-id VALUE`	リクエストの署名で、シークレットキーと組み合わせて使用するアクセスキー ID。これは、—secret-key と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、このオプションは無視されます。CloudWatch へのすべてのリクエストには署名が必要です。署名がないと、リクエストは拒否されます。 型: 文字列 有効な値: 有効なアクセスキー ID。 デフォルト: なし

名前	説明
`-K, --ec2-private-key-file-path VALUE`	リクエストに署名するために使用されるプライベートキー。パブリック/プライベートキーを使用すると、CLI が SOAP を使用します。リクエストは、パブリック証明書とプライベートキーを使用して署名されます。このパラメータは、`EC2_CERT` と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、この値は無視されます。設定されている場合は、環境変数の値 `EC2_PRIVATE_KEY` が使用され、このオプションは指定されません。環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` が設定されている場合、このオプションは無視されます。設定されていない場合は、`--aws-credentials-file` が使用されます。CloudWatch へのすべてのリクエストには署名が必要です。署名がないと、リクエストは拒否されます。 型: 文字列 有効な値: 有効な ASN.1 プライベートキーへのパス。 デフォルト: なし
`--region VALUE`	リクエストの送信先のリージョン。環境変数 `EC2_REGION` を使用して、この値を指定できます。このリージョンは、CloudWatch の呼び出しに使用する URL の作成で使用され、Amazon Web Services (AWS) の有効なリージョンである必要があります。 型: 文字列 有効な値: 任意の AWS リージョン (例: us-east-1) デフォルト: 環境変数 `EC2_REGION` が設定されている場合を除き、us-east-1

名前	説明
`S, --secret-key VALUE`	リクエストの署名で、アクセスキー ID と組み合わせて使用するシークレットアクセスキー。このパラメータは、`--access-key-id` と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、このオプションは無視されます。 型: 文字列 有効な値: アクセスキー ID デフォルト: なし
`--show-empty-fields`	プレースホルダーとして (nil) を使用して空のフィールドを表示し、このデータがリクエストされなかったことを示します。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: デフォルトでは、空のフィールドは表示されません。
`--show-request`	CLI が AWS の呼び出しに使用する URL を表示します。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: false

名前	説明
`--show-table, --show-long, --show-xml, --quiet`	結果の表示形式として、表形式、区切り形式 (長い)、XML 形式、または出力なし (非表示) を指定します。`--show-table` は、固定列幅のフォームにデータのサブネットを表示します。`--show-long` は、返されたすべての値を文字で区切って表示します。`--show-xml` は、サービスから返されたデータをそのままの状態で表示します。`--quiet` は、すべての標準出力を非表示にします。すべてのオプションは相互に排他的で、優先度は、`--show-table` 、`--show-long` 、`--show-xml` 、`--quiet` の順になります。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: `--show-table`
`-U, --url` VALUE	CloudWatch への接続に使用する URL。環境変数 `AWS_CLOUDWATCH_URL` を使用して、この値を設定できます。この値は有効な URL を作成するために `--region` と組み合わせて使用されます。このオプションは、サービス呼び出しの URL をオーバーライドします。 型: 文字列 有効な値:有効な HTTP または HTTPS URL。 デフォルト: 設定されている場合は、`AWS_CLOUDWATCH_URL` で指定した値を使用します。

出力

このコマンドにより、アラームが削除されます。

Amazon CloudWatch CLI は、stderr でエラーを表示します。

例

リクエストの例

この例では、my-alarm という名前のアラームを削除しています。

```
mon-delete-alarms --alarm-name my-alarm
```

リクエストの例

この例では、複数のアラームを削除しています。

```
mon-delete-alarms --alarm-name my-alarm1 my-alarm2 my-alarm3
```

関連トピック

ダウンロード

- コマンドラインインターフェイスをセットアップする

関連アクション

- DeleteAlarms

関連コマンド

- mon-put-metric-alarm
- mon-disable-alarm-actions
- mon-enable-alarm-actions

mon-describe-alarm-history

説明

指定したアラームの履歴を取得します。日付範囲または項目タイプでアラームをフィルターできます。アラーム名を指定しないと、Amazon CloudWatch はすべてのアラームの履歴を返します。

> **Note**
>
> Amazon CloudWatch は、アクティブなアラームと削除されたアラームの履歴を 2 週間保持します。

構文

mon-describe-alarm-history [AlarmNames [*AlarmNames* ...]] [--end-date *value*] [--history-item-type *value*] [--start-date *value*] [Common Options]

オプション

名前	説明
`AlarmName AlarmNames`	アラームの名前 (名前ごとにスペースで区切ります)。アラーム名を指定しないと、すべてのアラームの履歴が返されます。この値は `--alarm-name` を使用して設定することもできます。 タイプ: 引数 有効値: 文字長が 1 から 255 の文字列 デフォルト: N/A 必須：いいえ
`--end-date VALUE`	履歴の日付範囲の最終日。 タイプ: 日付 有効値: 日付 (YYYY-MM-DD 形式) デフォルト: 現在の日付 必須：いいえ
`--history-item-type VALUE`	取得する履歴項目のタイプ。デフォルトでは、すべてのタイプが返されます。

名前	説明
	タイプ: 列挙法 有効値: ConfigurationUpdate、StateUpdate、または Action デフォルト: すべてのタイプが返されます。 必須：いいえ
`--start-date VALUE`	履歴の日付範囲の開始日。デフォルトでは、すべての利用可能な履歴を含む範囲の開始日です。 タイプ: 日付 有効値: 日付 (YYYY-MM-DD 形式) デフォルト: すべての利用可能な履歴 必須：いいえ

一般的なオプション

名前	説明
`--aws-credential-file VALUE`	AWS 認証情報を含むファイルの場所。環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` を使用して、この値を設定できます。環境変数またはパスで指定する認証情報ファイルの場所は、実在のものでなければなりません。存在しない場合、リクエストは失敗します。すべての CloudWatch リクエストに、アクセスキー ID とシークレットアクセスキーを使用して署名する必要があります。 型: 文字列 有効な値: アクセスキー ID とシークレットアクセスキーを含むファイルへの有効なパス。

名前	説明
	デフォルト: 設定されている場合は、環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` を使用します。
`-C, --ec2-cert-file-path VALUE`	リクエストに署名するための EC2 証明書ファイルの場所。環境変数 `EC2_CERT` を使用して、この値を指定できます。 型: 文字列 有効な値: Amazon EC2 または AWS Identity and Access Management によって提供される PEM ファイルへの有効なファイルパス。 デフォルト: 設定されている場合は、環境変数 `EC2_CERT` を使用します。
`--connection-timeout VALUE`	接続タイムアウト値 (秒)。 型: 整数 有効な値: 任意の正の整数。 デフォルト: 30
`--delimiter VALUE`	長い結果を区切って表示する際に使用する区切り記号。 型: 文字列 有効な値: 任意の文字列。 デフォルト: コンマ (,)

名前	説明
`--headers`	表形式の結果または区切られた結果を表示する場合に、列ヘッダーを含めます。XML 形式の結果を表示する場合に、サービスリクエストから HTTP ヘッダーを返します (該当する場合)。 タイプ: フラグ 有効な値: 存在する場合は、ヘッダーを表示します。 デフォルト: `--headers` オプションは、デフォルトでオフになっています。
`-I, --access-key-id VALUE`	リクエストの署名で、シークレットキーと組み合わせて使用するアクセスキー ID。これは、—secret-key と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、このオプションは無視されます。CloudWatch へのすべてのリクエストには署名が必要です。署名がないと、リクエストは拒否されます。 型: 文字列 有効な値: 有効なアクセスキー ID。 デフォルト: なし

名前	説明
`-K, --ec2-private-key-file-path VALUE`	リクエストに署名するために使用されるプライベートキー。パブリック/プライベートキーを使用すると、CLI が SOAP を使用します。リクエストは、パブリック証明書とプライベートキーを使用して署名されます。このパラメータは、`EC2_CERT` と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、この値は無視されます。設定されている場合は、環境変数の値 `EC2_PRIVATE_KEY` が使用され、このオプションは指定されません。環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` が設定されている場合、このオプションは無視されます。設定されていない場合は、`--aws-credentials-file` が使用されます。CloudWatch へのすべてのリクエストには署名が必要です。署名がないと、リクエストは拒否されます。 型: 文字列 有効な値: 有効な ASN.1 プライベートキーへのパス。 デフォルト: なし
`--region VALUE`	リクエストの送信先のリージョン。環境変数 `EC2_REGION` を使用して、この値を指定できます。このリージョンは、CloudWatch の呼び出しに使用する URL の作成で使用され、Amazon Web Services (AWS) の有効なリージョンである必要があります。 型: 文字列 有効な値: 任意の AWS リージョン (例: us-east-1) デフォルト: 環境変数 `EC2_REGION` が設定されている場合を除き、us-east-1

名前	説明
`S, --secret-key VALUE`	リクエストの署名で、アクセスキー ID と組み合わせて使用するシークレットアクセスキー。このパラメータは、`--access-key-id` と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、このオプションは無視されます。 型: 文字列 有効な値: アクセスキー ID デフォルト: なし
`--show-empty-fields`	プレースホルダーとして (nil) を使用して空のフィールドを表示し、このデータがリクエストされなかったことを示します。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: デフォルトでは、空のフィールドは表示されません。
`--show-request`	CLI が AWS の呼び出しに使用する URL を表示します。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: false

名前	説明
`--show-table, --show-long, --show-xml, --quiet`	結果の表示形式として、表形式、区切り形式 (長い)、XML 形式、または出力なし (非表示) を指定します。`--show-table` は、固定列幅のフォームにデータのサブネットを表示します。`--show-long` は、返されたすべての値を文字で区切って表示します。`--show-xml` は、サービスから返されたデータをそのままの状態で表示します。`--quiet` は、すべての標準出力を非表示にします。すべてのオプションは相互に排他的で、優先度は、`--show-table` 、`--show-long` 、`--show-xml` 、`--quiet` の順になります。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: `--show-table`
`-U, --url` VALUE	CloudWatch への接続に使用する URL。環境変数 `AWS_CLOUDWATCH_URL` を使用して、この値を設定できます。この値は有効な URL を作成するために `--region` と組み合わせて使用されます。このオプションは、サービス呼び出しの URL をオーバーライドします。 型: 文字列 有効な値:有効な HTTP または HTTPS URL。 デフォルト: 設定されている場合は、`AWS_CLOUDWATCH_URL` で指定した値を使用します。

出力

このコマンドで、以下の値を含む表が返されます。

- ALARM – アラーム名。

- TIMESTAMP – タイムスタンプ。
- TYPE – イベントタイプ。ConfigurationUpdate、StateUpdate、Action のいずれかです。
- SUMMARY – 人間が判読できる履歴イベントの概要。
- DATA – マシンが読み取り可能な JSON 形式のイベントの詳細データ。この列は —show-long ビューにのみ表示されます。

Amazon CloudWatch CLI は、stderr でエラーを表示します。

例

リクエストの例

この例では、アラーム my-alarm の全履歴項目を記述しています。

```
mon-describe-alarm-history--alarm-name my-alarm --headers
```

このコマンドの出力例は次のとおりです。

```
ALARM     TIMESTAMP                 TYPE                SUMMARY
my-alarm  2013-05-07T18:46:16.121Z  Action              Published a notification to
 arn:aws:sns:...
my-alarm  2013-05-07T18:46:16.118Z  StateUpdate         Alarm updated from
 INSUFFICIENT_DATA to OK
my-alarm  2013-05-07T18:46:07.362Z  ConfigurationUpdate  Alarm "my-alarm" created
```

関連トピック

ダウンロード

- コマンドラインインターフェイスをセットアップする

関連アクション

- DescribeAlarmHistory

関連コマンド

- mon-describe-alarms

- mon-describe-alarms-for-metric

mon-describe-alarms

説明

指定したアラームに関する情報を取得します。アラーム名を指定しないと、すべてのアラームの情報が返されます。アラーム名のプレフィックス、アラームの状態、またはアクションのプレフィックスだけでも、アラームを特定することができます。

構文

mon-describe-alarms [AlarmNames [*AlarmNames* ...]] [--action-prefix *value*] [--alarm-name-prefix *value*] [--state-value *value*] [Common Options]

オプション

名前	説明
`AlarmNames AlarmNames`	アラームの名前。この値は `--alarm-name` を使用して設定することもできます。このオプションは複数回指定できます。 タイプ: 引数 有効値: 既存のアラーム名。それ以外では応答は返されません。 デフォルト: N/A。デフォルトではすべてのアラームが表示されます。 必須：いいえ
`--action-prefix VALUE`	アクション名のプレフィックス。 タイプ: 引数 有効値: 既存のアクション名のプレフィックス (ARN 形式)。

名前	説明
	デフォルト: N/A。デフォルトでは最初のアクションが表示されます。 必須：いいえ
`--alarm-name-prefix VALUE`	アラーム名のプレフィックス。 タイプ: 引数 有効値: 既存のアラーム名のプレフィックス。 デフォルト: N/A 必須：いいえ
`--state-value VALUE`	アラームの状態。 タイプ: 列挙法 有効値: OK、ALARM、または INSUFFICIENT_DATA デフォルト: すべてのアラーム状態 必須：いいえ

一般的なオプション

名前	説明
`--aws-credential-file VALUE`	AWS 認証情報を含むファイルの場所。環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` を使用して、この値を設定できます。環境変数またはパスで指定する認証情報ファイルの場所は、実在のものでなければなりません。存在しない場合、リクエストは失敗します。すべての CloudWatch リクエストに、アクセスキー ID とシークレットアクセスキーを使用して署名する必要があります。

名前	説明
	型: 文字列 有効な値: アクセスキー ID とシークレットアクセスキーを含むファイルへの有効なパス。 デフォルト: 設定されている場合は、環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` を使用します。
`-C, --ec2-cert-file-path VALUE`	リクエストに署名するための EC2 証明書ファイルの場所。環境変数 `EC2_CERT` を使用して、この値を指定できます。 型: 文字列 有効な値: Amazon EC2 または AWS Identity and Access Management によって提供される PEM ファイルへの有効なファイルパス。 デフォルト: 設定されている場合は、環境変数 `EC2_CERT` を使用します。
`--connection-timeout VALUE`	接続タイムアウト値 (秒)。 型: 整数 有効な値: 任意の正の整数。 デフォルト: 30
`--delimiter VALUE`	長い結果を区切って表示する際に使用する区切り記号。 型: 文字列 有効な値: 任意の文字列。 デフォルト: コンマ (,)

名前	説明
`--headers`	表形式の結果または区切られた結果を表示する場合に、列ヘッダーを含めます。XML 形式の結果を表示する場合に、サービスリクエストから HTTP ヘッダーを返します (該当する場合)。 タイプ: フラグ 有効な値: 存在する場合は、ヘッダーを表示します。 デフォルト: `--headers` オプションは、デフォルトでオフになっています。
`-I, --access-key-id VALUE`	リクエストの署名で、シークレットキーと組み合わせて使用するアクセスキー ID。これは、—secret-key と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、このオプションは無視されます。CloudWatch へのすべてのリクエストには署名が必要です。署名がないと、リクエストは拒否されます。 型: 文字列 有効な値: 有効なアクセスキー ID。 デフォルト: なし

名前	説明
`-K, --ec2-private-key-file-path VALUE`	リクエストに署名するために使用されるプライベートキー。パブリック/プライベートキーを使用すると、CLI が SOAP を使用します。リクエストは、パブリック証明書とプライベートキーを使用して署名されます。このパラメータは、`EC2_CERT` と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、この値は無視されます。設定されている場合は、環境変数の値 `EC2_PRIVATE_KEY` が使用され、このオプションは指定されません。環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` が設定されている場合、このオプションは無視されます。設定されていない場合は、`--aws-credentials-file` が使用されます。CloudWatch へのすべてのリクエストには署名が必要です。署名がないと、リクエストは拒否されます。 型: 文字列 有効な値: 有効な ASN.1 プライベートキーへのパス。 デフォルト: なし
`--region VALUE`	リクエストの送信先のリージョン。環境変数 `EC2_REGION` を使用して、この値を指定できます。このリージョンは、CloudWatch の呼び出しに使用する URL の作成で使用され、Amazon Web Services (AWS) の有効なリージョンである必要があります。 型: 文字列 有効な値: 任意の AWS リージョン (例: us-east-1) デフォルト: 環境変数 `EC2_REGION` が設定されている場合を除き、us-east-1

名前	説明
`S, --secret-key VALUE`	リクエストの署名で、アクセスキー ID と組み合わせて使用するシークレットアクセスキー。このパラメータは、`--access-key-id` と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、このオプションは無視されます。 型: 文字列 有効な値: アクセスキー ID デフォルト: なし
`--show-empty-fields`	プレースホルダーとして (nil) を使用して空のフィールドを表示し、このデータがリクエストされなかったことを示します。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: デフォルトでは、空のフィールドは表示されません。
`--show-request`	CLI が AWS の呼び出しに使用する URL を表示します。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: false

名前	説明
`--show-table, --show-long, --show-xml, --quiet`	結果の表示形式として、表形式、区切り形式 (長い)、XML 形式、または出力なし (非表示) を指定します。`--show-table` は、固定列幅のフォームにデータのサブネットを表示します。`--show-long` は、返されたすべての値を文字で区切って表示します。`--show-xml` は、サービスから返されたデータをそのままの状態で表示します。`--quiet` は、すべての標準出力を非表示にします。すべてのオプションは相互に排他的で、優先度は、`--show-table` 、`--show-long` 、`--show-xml` 、`--quiet` の順になります。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: `--show-table`
`-U, --url` VALUE	CloudWatch への接続に使用する URL。環境変数 `AWS_CLOUDWATCH_URL` を使用して、この値を設定できます。この値は有効な URL を作成するために `--region` と組み合わせて使用されます。このオプションは、サービス呼び出しの URL をオーバーライドします。 型: 文字列 有効な値:有効な HTTP または HTTPS URL。 デフォルト: 設定されている場合は、`AWS_CLOUDWATCH_URL` で指定した値を使用します。

出力

このコマンドで、以下の値を含む表が返されます。

- ALARM – アラーム名。

- DESCRIPTION – アラームの説明。この列は —show-long ビューにのみ表示されます。
- STATE – アラームの状態。
- STATE_REASON – 状態の理由 (人が読み取り可能な記述)。この列は —show-long ビューにのみ表示されます。
- STATE_REASON_DATA – 状態の理由 (コンピュータ向けの JSON 形式の記述)。この列は —show-long ビューにのみ表示されます。
- ENABLED – アクションを有効または無効にします。この列は —show-long ビューにのみ表示されます。
- OK_ACTIONS – OK のステータスで実行するアクション。この列は —show-long ビューにのみ表示されます。
- ALARM_ACTIONS – ALARM のステータスで実行するアクション。
- INSUFFICIENT_DATA_ACTIONS – INSUFFICIENT_DATA のステータスで実行するアクション。この列は —show-long ビューにのみ表示されます。
- NAMESPACE – メトリクスの名前空間。
- METRIC_NAME – メトリクスの名前。
- DIMENSIONS – メトリクスディメンション。この列は —show-long ビューにのみ表示されます。
- PERIOD – 期間。
- STATISTIC – 統計 (Average、Minimum、Maximum、Sum、SampleCount)。
- EXTENDEDSTATISTIC – パーセンタイル統計。
- UNIT – 単位。この列は —show-long ビューにのみ表示されます。
- EVAL_PERIODS – メトリクスを評価する期間の数。
- COMPARISON – 比較演算子。
- THRESHOLD – しきい値。

Amazon CloudWatch CLI は、stderr でエラーを表示します。

例

リクエストの例

この例では、名前が my-alarm で始まるアラームをすべて記述しています。

```
mon-describe-alarms --alarm-name-prefix my-alarm --headers
```

このコマンドの出力例は次のとおりです。

```
ALARM      STATE ALARM_ACTIONS  NAMESPACE  METRIC_NAME    PERIOD  STATISTIC
 EVAL_PERIODS  COMPARISON            THRESHOLD
my-alarm1  OK    arn:aws:sns:.. AWS/EC2    CPUUtilization 60      Average    3
    GreaterThanThreshold  100.0
my-alarm2  OK    arn:aws:sns:.. AWS/EC2    CPUUtilization 60      Average    5

GreaterThanThreshold  80o.0
```

関連トピック

ダウンロード

- コマンドラインインターフェイスをセットアップする

関連アクション

- DescribeAlarms

関連コマンド

- mon-describe-alarm-history
- mon-describe-alarms-for-metric

mon-describe-alarms-for-metric

説明

指定したメトリクスに関連付けられているアラームに関する情報を取得します。

構文

mon-describe-alarms-for-metric --metric-name *value* --namespace *value* [--dimensions "key1=*value1*,key2=*value2*..."] [--period *value*] [--statistic *value*] [--extendedstatistic *value*] [--unit *value*] [Common Options]

オプション

名前	説明
`--dimensions - "key1=value1,key2=value2...`	メトリクスに関連付けられているディメンション。ディメンションは 2 つの方法で指定でき、形式を組み合わせて、あるいは互換的に使用することができます。 • 1 ディメンションに 1 つのオプションの場合: --dimensions "key1=value1" --dimensions "key2=value2" • 1 つのオプションにまとめた場合: --dimensions "key1=value1,key2=value2" タイプ: マップ 有効値: name=value 形式の文字列。ここで、key はディメンション名、value はディメンションの値です。ディメンション名と値は、文字長が 1 から 250 の ANSI 文字列である必要があります。最大 10 ディメンションが許可されています。 デフォルト: N/A 必須：いいえ
`--metric-name VALUE`	検索するアラームに関連付けられているメトリクスの名前。 タイプ: 引数 有効値: 文字長が 1 から 255 の有効なメトリクス名 デフォルト: N/A 必須: はい

名前	説明
`--namespace VALUE`	アラームに関連付けられているメトリクスの名前空間。名前空間の詳細については、AWS の名前空間を参照してください。 型: 文字列 有効値: 文字長が 1 から 250 の有効な名前空間 デフォルト: N/A 必須: はい
`--period VALUE`	アラームをフィルタリングする期間です。この期間にメトリクスを評価するアラームのみが結果に含まれます。期間が指定されていない場合、全期間のアラームが含まれます。 タイプ: 引数 有効値: 秒数、60 の倍数。 デフォルト: N/A 必須：いいえ
`--statistic VALUE`	アラームをフィルタリングする統計です。指定した統計のアラームのみが含まれます。このパラメータを指定しない限り、すべての統計のアラームが含まれます。 タイプ: 列挙法 有効値: SampleCount、Average、Sum、Minimum、または Maximum デフォルト: N/A 必須：いいえ

名前	説明
`--extendedstatistic VALUE`	アラームをフィルタリングするパーセンタイル統計です。指定した統計のアラームのみが含まれます。このパラメータを指定しない限り、すべての統計のアラームが含まれます。 型: 文字列 有効な値: 小数点以下 2 桁までの任意のパーセンタイル (p95.45 など)。 デフォルト: N/A 必須：いいえ

名前	説明
`--unit VALUE`	アラームをフィルターする単位。指定した統計のアラームのみが含まれます。単位を指定しないと、すべての単位のアラームが含まれます。単位が指定されてないアラームを検索する場合は、必ずこのオプションを省略してください。 タイプ: 列挙法 有効な値: 以下のいずれかです。 • [秒] • マイクロ秒 • ミリ秒 • バイト • Kilobytes • Megabytes • Gigabytes • Terabytes • Bits • Kilobits • Megabits • Gigabits • Terabits • 割合 (%) • カウント • Bytes/Second • Kilobytes/Second • Megabytes/Second • Gigabytes/Second • Terabytes/Second • Bits/Second

名前	説明
	• Kilobits/Second • Megabits/Second • Gigabits/Second • Terabits/Second • Count/Second • なし デフォルト: N/A 必須：いいえ

一般的なオプション

名前	説明
`--aws-credential-file VALUE`	AWS 認証情報を含むファイルの場所。環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` を使用して、この値を設定できます。環境変数またはパスで指定する認証情報ファイルの場所は、実在のものでなければなりません。存在しない場合、リクエストは失敗します。すべての CloudWatch リクエストに、アクセスキー ID とシークレットアクセスキーを使用して署名する必要があります。 型: 文字列 有効な値: アクセスキー ID とシークレットアクセスキーを含むファイルへの有効なパス。 デフォルト: 設定されている場合は、環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` を使用します。

名前	説明
`-C, --ec2-cert-file-path VALUE`	リクエストに署名するための EC2 証明書ファイルの場所。環境変数 `EC2_CERT` を使用して、この値を指定できます。 型: 文字列 有効な値: Amazon EC2 または AWS Identity and Access Management によって提供される PEM ファイルへの有効なファイルパス。 デフォルト: 設定されている場合は、環境変数 `EC2_CERT` を使用します。
`--connection-timeout VALUE`	接続タイムアウト値 (秒)。 型: 整数 有効な値: 任意の正の整数。 デフォルト: 30
`--delimiter VALUE`	長い結果を区切って表示する際に使用する区切り記号。 型: 文字列 有効な値: 任意の文字列。 デフォルト: コンマ (,)

名前	説明
`--headers`	表形式の結果または区切られた結果を表示する場合に、列ヘッダーを含めます。XML 形式の結果を表示する場合に、サービスリクエストから HTTP ヘッダーを返します (該当する場合)。 タイプ: フラグ 有効な値: 存在する場合は、ヘッダーを表示します。 デフォルト: `--headers` オプションは、デフォルトでオフになっています。
`-I, --access-key-id VALUE`	リクエストの署名で、シークレットキーと組み合わせて使用するアクセスキー ID。これは、—secret-key と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、このオプションは無視されます。CloudWatch へのすべてのリクエストには署名が必要です。署名がないと、リクエストは拒否されます。 型: 文字列 有効な値: 有効なアクセスキー ID。 デフォルト: なし

名前	説明
`-K, --ec2-private-key-file-path VALUE`	リクエストに署名するために使用されるプライベートキー。パブリック/プライベートキーを使用すると、CLI が SOAP を使用します。リクエストは、パブリック証明書とプライベートキーを使用して署名されます。このパラメータは、`EC2_CERT` と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、この値は無視されます。設定されている場合は、環境変数の値 `EC2_PRIVATE_KEY` が使用され、このオプションは指定されません。環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` が設定されている場合、このオプションは無視されます。設定されていない場合は、`--aws-credentials-file` が使用されます。CloudWatch へのすべてのリクエストには署名が必要です。署名がないと、リクエストは拒否されます。 型: 文字列 有効な値: 有効な ASN.1 プライベートキーへのパス。 デフォルト: なし
`--region VALUE`	リクエストの送信先のリージョン。環境変数 `EC2_REGION` を使用して、この値を指定できます。このリージョンは、CloudWatch の呼び出しに使用する URL の作成で使用され、Amazon Web Services (AWS) の有効なリージョンである必要があります。 型: 文字列 有効な値: 任意の AWS リージョン (例: us-east-1) デフォルト: 環境変数 `EC2_REGION` が設定されている場合を除き、us-east-1

名前	説明
`S, --secret-key VALUE`	リクエストの署名で、アクセスキー ID と組み合わせて使用するシークレットアクセスキー。このパラメータは、`--access-key-id` と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、このオプションは無視されます。 型: 文字列 有効な値: アクセスキー ID デフォルト: なし
`--show-empty-fields`	プレースホルダーとして (nil) を使用して空のフィールドを表示し、このデータがリクエストされなかったことを示します。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: デフォルトでは、空のフィールドは表示されません。
`--show-request`	CLI が AWS の呼び出しに使用する URL を表示します。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: false

名前	説明
`--show-table, --show-long, --show-xml, --quiet`	結果の表示形式として、表形式、区切り形式 (長い)、XML 形式、または出力なし (非表示) を指定します。`--show-table` は、固定列幅のフォームにデータのサブネットを表示します。`--show-long` は、返されたすべての値を文字で区切って表示します。`--show-xml` は、サービスから返されたデータをそのままの状態で表示します。`--quiet` は、すべての標準出力を非表示にします。すべてのオプションは相互に排他的で、優先度は、`--show-table` 、`--show-long` 、`--show-xml` 、`--quiet` の順になります。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: `--show-table`
`-U, --url` VALUE	CloudWatch への接続に使用する URL。環境変数 `AWS_CLOUDWATCH_URL` を使用して、この値を設定できます。この値は有効な URL を作成するために `--region` と組み合わせて使用されます。このオプションは、サービス呼び出しの URL をオーバーライドします。 型: 文字列 有効な値:有効な HTTP または HTTPS URL。 デフォルト: 設定されている場合は、`AWS_CLOUDWATCH_URL` で指定した値を使用します。

出力

このコマンドで、以下の値を含む表が返されます。

- ALARM – アラーム名。

- DESCRIPTION – アラームの説明。この列は —show-long ビューにのみ表示されます。
- STATE – アラームの状態。
- STATE_REASON – 状態の理由 (人が読み取り可能な記述)。この列は —show-long ビューにのみ表示されます。
- STATE_REASON_DATA – 状態の理由 (コンピュータ向けの JSON 形式の記述)。この列は —show-long ビューにのみ表示されます。
- ENABLED – アクションを有効または無効にします。この列は —show-long ビューにのみ表示されます。
- OK_ACTIONS – OK のステータスで実行するアクション。この列は —show-long ビューにのみ表示されます。
- ALARM_ACTIONS – ALARM のステータスで実行するアクション。
- INSUFFICIENT_DATA_ACTIONS – INSUFFICIENT_DATA のステータスで実行するアクション。この列は —show-long ビューにのみ表示されます。
- NAMESPACE – メトリクスの名前空間。
- METRIC_NAME – メトリクスの名前。
- DIMENSIONS – メトリクスディメンション。この列は —show-long ビューにのみ表示されます。
- PERIOD – 期間。
- STATISTIC – 統計 (Average、Minimum、Maximum、Sum、SampleCount)。
- EXTENDEDSTATISTIC – パーセンタイル統計。
- UNIT – 単位。この列は —show-long ビューにのみ表示されます。
- EVAL_PERIODS – メトリクスを評価する期間の数。
- COMPARISON – 比較演算子。
- THRESHOLD – しきい値。

Amazon CloudWatch CLI は、stderr でエラーを表示します。

例

リクエストの例

この例では、特定のメトリクスのアラームを記述しています。

```
mon-describe-alarms-for-metric--metric-name CPUUtilization --namespace AWS/EC2  --
dimensions InstanceId=i-abcdef
```

このコマンドの出力例は次のとおりです。

```
ALARM    STATE ALARM_ACTIONS  NAMESPACE  METRIC_NAME    PERIOD  STATISTIC  EVAL_PERIODS
  COMPARISON            THRESHOLD
my-alarm1  OK    arn:aws:sns:.. AWS/EC2    CPUUtilization 60      Average    3
    GreaterThanThreshold  100.0
my-alarm2  OK    arn:aws:sns:.. AWS/EC2    CPUUtilization 60      Average    5
    GreaterThanThreshold  80.0
```

関連トピック

ダウンロード

- コマンドラインインターフェイスをセットアップする

関連アクション

- DescribeAlarmForMetric

関連コマンド

- mon-describe-alarm-history
- mon-describe-alarms

mon-disable-alarm-actions

説明

指定したアラームのすべてのアクションを無効にします。

構文

mon-disable-alarm-actions [AlarmNames [*AlarmNames* ...]] [Common Options]

オプション

名前	説明
`AlarmNames AlarmNames`	アラームの名前。この値は `--alarm-name` を使用して設定することもできます。 タイプ: 引数 有効値: 有効なアラーム名の一覧 デフォルト: N/A 必須: はい

一般的なオプション

名前	説明
`--aws-credential-file VALUE`	AWS 認証情報を含むファイルの場所。環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` を使用して、この値を設定できます。環境変数またはパスで指定する認証情報ファイルの場所は、実在のものでなければなりません。存在しない場合、リクエストは失敗します。すべての CloudWatch リクエストに、アクセスキー ID とシークレットアクセスキーを使用して署名する必要があります。 型: 文字列 有効な値: アクセスキー ID とシークレットアクセスキーを含むファイルへの有効なパス。 デフォルト: 設定されている場合は、環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` を使用します。

名前	説明
`-C, --ec2-cert-file-path VALUE`	リクエストに署名するための EC2 証明書ファイルの場所。環境変数 `EC2_CERT` を使用して、この値を指定できます。 型: 文字列 有効な値: Amazon EC2 または AWS Identity and Access Management によって提供される PEM ファイルへの有効なファイルパス。 デフォルト: 設定されている場合は、環境変数 `EC2_CERT` を使用します。
`--connection-timeout VALUE`	接続タイムアウト値 (秒)。 型: 整数 有効な値: 任意の正の整数。 デフォルト: 30
`--delimiter VALUE`	長い結果を区切って表示する際に使用する区切り記号。 型: 文字列 有効な値: 任意の文字列。 デフォルト: コンマ (,)

名前	説明
`--headers`	表形式の結果または区切られた結果を表示する場合に、列ヘッダーを含めます。XML 形式の結果を表示する場合に、サービスリクエストから HTTP ヘッダーを返します (該当する場合)。 タイプ: フラグ 有効な値: 存在する場合は、ヘッダーを表示します。 デフォルト: `--headers` オプションは、デフォルトでオフになっています。
`-I, --access-key-id VALUE`	リクエストの署名で、シークレットキーと組み合わせて使用するアクセスキー ID。これは、—secret-key と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、このオプションは無視されます。CloudWatch へのすべてのリクエストには署名が必要です。署名がないと、リクエストは拒否されます。 型: 文字列 有効な値: 有効なアクセスキー ID。 デフォルト: なし

名前	説明
`-K, --ec2-private-key-file-path VALUE`	リクエストに署名するために使用されるプライベートキー。パブリック/プライベートキーを使用すると、CLI が SOAP を使用します。リクエストは、パブリック証明書とプライベートキーを使用して署名されます。このパラメータは、`EC2_CERT` と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、この値は無視されます。設定されている場合は、環境変数の値 `EC2_PRIVATE_KEY` が使用され、このオプションは指定されません。環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` が設定されている場合、このオプションは無視されます。設定されていない場合は、`--aws-credentials-file` が使用されます。CloudWatch へのすべてのリクエストには署名が必要です。署名がないと、リクエストは拒否されます。 型: 文字列 有効な値: 有効な ASN.1 プライベートキーへのパス。 デフォルト: なし
`--region VALUE`	リクエストの送信先のリージョン。環境変数 `EC2_REGION` を使用して、この値を指定できます。このリージョンは、CloudWatch の呼び出しに使用する URL の作成で使用され、Amazon Web Services (AWS) の有効なリージョンである必要があります。 型: 文字列 有効な値: 任意の AWS リージョン (例: us-east-1) デフォルト: 環境変数 `EC2_REGION` が設定されている場合を除き、us-east-1

名前	説明
`S, --secret-key VALUE`	リクエストの署名で、アクセスキー ID と組み合わせて使用するシークレットアクセスキー。このパラメータは、`--access-key-id` と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、このオプションは無視されます。 型: 文字列 有効な値: アクセスキー ID デフォルト: なし
`--show-empty-fields`	プレースホルダーとして (nil) を使用して空のフィールドを表示し、このデータがリクエストされなかったことを示します。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: デフォルトでは、空のフィールドは表示されません。
`--show-request`	CLI が AWS の呼び出しに使用する URL を表示します。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: false

名前	説明
`--show-table, --show-long, --show-xml, --quiet`	結果の表示形式として、表形式、区切り形式 (長い)、XML 形式、または出力なし (非表示) を指定します。`--show-table` は、固定列幅のフォームにデータのサブネットを表示します。`--show-long` は、返されたすべての値を文字で区切って表示します。`--show-xml` は、サービスから返されたデータをそのままの状態で表示します。`--quiet` は、すべての標準出力を非表示にします。すべてのオプションは相互に排他的で、優先度は、`--show-table` 、`--show-long` 、`--show-xml` 、`--quiet` の順になります。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: `--show-table`
`-U, --url` VALUE	CloudWatch への接続に使用する URL。環境変数 `AWS_CLOUDWATCH_URL` を使用して、この値を設定できます。この値は有効な URL を作成するために `--region` と組み合わせて使用されます。このオプションは、サービス呼び出しの URL をオーバーライドします。 型: 文字列 有効な値:有効な HTTP または HTTPS URL。 デフォルト: 設定されている場合は、`AWS_CLOUDWATCH_URL` で指定した値を使用します。

出力

このコマンドで、指定されたアラームのアクションが無効になります。

Amazon CloudWatch CLI は、stderr でエラーを表示します。

例

リクエストの例

この例では、my-alarm というアラームのアクションをすべて無効にします。

```
mon-disable-alarm-actions --alarm-name my-alarm
```

関連トピック

ダウンロード

- コマンドラインインターフェイスをセットアップする

関連アクション

- DisableAlarmActions

関連コマンド

- mon-enable-alarm-actions
- mon-delete-alarms

mon-enable-alarm-actions

説明

指定したアラームのすべてのアクションを有効にします。

構文

mon-enable-alarm-actions [AlarmNames [*AlarmNames* ...]] [Common Options]

オプション

名前	説明
`AlarmNames AlarmNames`	アラームの名前。この値は `--alarm-name` を使用して設定することもできます。 タイプ: 引数 有効値: 有効なアラーム名の一覧 デフォルト: N/A 必須: はい

一般的なオプション

名前	説明
`--aws-credential-file VALUE`	AWS 認証情報を含むファイルの場所。環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` を使用して、この値を設定できます。環境変数またはパスで指定する認証情報ファイルの場所は、実在のものでなければなりません。存在しない場合、リクエストは失敗します。すべての CloudWatch リクエストに、アクセスキー ID とシークレットアクセスキーを使用して署名する必要があります。 型: 文字列 有効な値: アクセスキー ID とシークレットアクセスキーを含むファイルへの有効なパス。 デフォルト: 設定されている場合は、環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` を使用します。

名前	説明
`-C, --ec2-cert-file-path VALUE`	リクエストに署名するための EC2 証明書ファイルの場所。環境変数 `EC2_CERT` を使用して、この値を指定できます。 型: 文字列 有効な値: Amazon EC2 または AWS Identity and Access Management によって提供される PEM ファイルへの有効なファイルパス。 デフォルト: 設定されている場合は、環境変数 `EC2_CERT` を使用します。
`--connection-timeout VALUE`	接続タイムアウト値 (秒)。 型: 整数 有効な値: 任意の正の整数。 デフォルト: 30
`--delimiter VALUE`	長い結果を区切って表示する際に使用する区切り記号。 型: 文字列 有効な値: 任意の文字列。 デフォルト: コンマ (,)

名前	説明
`--headers`	表形式の結果または区切られた結果を表示する場合に、列ヘッダーを含めます。XML 形式の結果を表示する場合に、サービスリクエストから HTTP ヘッダーを返します (該当する場合)。 タイプ: フラグ 有効な値: 存在する場合は、ヘッダーを表示します。 デフォルト: `--headers` オプションは、デフォルトでオフになっています。
`-I, --access-key-id VALUE`	リクエストの署名で、シークレットキーと組み合わせて使用するアクセスキー ID。これは、—secret-key と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、このオプションは無視されます。CloudWatch へのすべてのリクエストには署名が必要です。署名がないと、リクエストは拒否されます。 型: 文字列 有効な値: 有効なアクセスキー ID。 デフォルト: なし

名前	説明
`-K, --ec2-private-key-file-path VALUE`	リクエストに署名するために使用されるプライベートキー。パブリック/プライベートキーを使用すると、CLI が SOAP を使用します。リクエストは、パブリック証明書とプライベートキーを使用して署名されます。このパラメータは、`EC2_CERT` と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、この値は無視されます。設定されている場合は、環境変数の値 `EC2_PRIVATE_KEY` が使用され、このオプションは指定されません。環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` が設定されている場合、このオプションは無視されます。設定されていない場合は、`--aws-credentials-file` が使用されます。CloudWatch へのすべてのリクエストには署名が必要です。署名がないと、リクエストは拒否されます。 型: 文字列 有効な値: 有効な ASN.1 プライベートキーへのパス。 デフォルト: なし
`--region VALUE`	リクエストの送信先のリージョン。環境変数 `EC2_REGION` を使用して、この値を指定できます。このリージョンは、CloudWatch の呼び出しに使用する URL の作成で使用され、Amazon Web Services (AWS) の有効なリージョンである必要があります。 型: 文字列 有効な値: 任意の AWS リージョン (例: us-east-1) デフォルト: 環境変数 `EC2_REGION` が設定されている場合を除き、us-east-1

名前	説明
`S, --secret-key VALUE`	リクエストの署名で、アクセスキー ID と組み合わせて使用するシークレットアクセスキー。このパラメータは、`--access-key-id` と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、このオプションは無視されます。 型: 文字列 有効な値: アクセスキー ID デフォルト: なし
`--show-empty-fields`	プレースホルダーとして (nil) を使用して空のフィールドを表示し、このデータがリクエストされなかったことを示します。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: デフォルトでは、空のフィールドは表示されません。
`--show-request`	CLI が AWS の呼び出しに使用する URL を表示します。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: false

名前	説明
`--show-table, --show-long, --show-xml, --quiet`	結果の表示形式として、表形式、区切り形式 (長い)、XML 形式、または出力なし (非表示) を指定します。`--show-table` は、固定列幅のフォームにデータのサブネットを表示します。`--show-long` は、返されたすべての値を文字で区切って表示します。`--show-xml` は、サービスから返されたデータをそのままの状態で表示します。`--quiet` は、すべての標準出力を非表示にします。すべてのオプションは相互に排他的で、優先度は、`--show-table` 、`--show-long` 、`--show-xml` 、`--quiet` の順になります。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: `--show-table`
`-U, --url` VALUE	CloudWatch への接続に使用する URL。環境変数 `AWS_CLOUDWATCH_URL` を使用して、この値を設定できます。この値は有効な URL を作成するために `--region` と組み合わせて使用されます。このオプションは、サービス呼び出しの URL をオーバーライドします。 型: 文字列 有効な値:有効な HTTP または HTTPS URL。 デフォルト: 設定されている場合は、`AWS_CLOUDWATCH_URL` で指定した値を使用します。

出力

このコマンドで、指定されたアラームのアクションが有効になります。

Amazon CloudWatch CLI は、stderr でエラーを表示します。

例

リクエストの例

この例では、my-alarm というアラームのアクションをすべて有効にします。

```
mon-enable-alarm-actions --alarm-name my-alarm
```

関連トピック

ダウンロード

- コマンドラインインターフェイスをセットアップする

関連アクション

- EnableAlarmActions

関連コマンド

- mon-disable-alarm-actions
- mon-delete-alarms

mon-get-stats

説明

指定した統計に関する時系列データを取得します。

> **Note**
>
> `mon-put-data` コマンドで新しいメトリクスを作成した場合、`mon-get-stats` コマンドを用いてその新規メトリクスの統計を取得できるようになるまで最大 2 分かかります。ただし、`mon-list-metrics` コマンドを用いて取得したメトリクスのリストに新規メトリクスが表示されるまで最大 15 分かかることがあります。

構文

```
mon-get-stats MetricName --namespace value --statistics value[,value...]
[--dimensions "key1=value1,key2=value2..." ] [--end-time value] [--period
value] [--start-time value] [--unit value] [Common Options]
```

オプション

名前	説明
`MetricName`	メトリクスの名前。この値は `--metric-name` を使用して設定することもできます。 タイプ: 引数 有効値: 1 から 255 文字の有効なメトリクス名 デフォルト: N/A 必須: はい
`--dimensions "key1=value1,key2=value2..."`	メトリクスのディメンション。ディメンションは 2 つの方法で指定でき、形式を組み合わせて、あるいは互換的に使用することができます。 • 1 ディメンションに 1 つのオプションの場合: --dimensions "key1=value1" --dimensions "key2=value2" • 1 つのオプションにまとめた場合: --dimensions "key1=value1,key2=value2" タイプ: マップ 有効値: name=value 形式の文字列。ここで、key はディメンション名、value はディメンションの値です。ディメンション名と値は、文字長が 1 から 250 の ANSI 文字列である必要があります。最大 10 ディメンションが許可されています。 デフォルト: N/A

名前	説明
	必須：いいえ
`--end-time VALUE`	返されたデータポイントに許容される最新のタイムスタンプ。終了時間は含まれません。タイムスタンプは、ISO8601 複合形式を使用して指定します。たとえば、日時が 2013 年 7 月 30 日 12:30:00 (PST) の場合、2013-07-30T12:30:00-07:00、または UTC で 2013-07-30T19:30:00Z と表記されます。CloudWatch が返すことのできる最小単位は 1 分です。このため、すべてのタイムスタンプは分単位に切り下げて表示されます。 タイプ: 引数 有効値: タイムゾーンオフセットまたは UTC 表示による、ISO8601 形式で表記された有効なタイムスタンプ デフォルト: 現在の日時 必須：いいえ
`-n, --namespace VALUE`	メトリクスの名前空間。名前空間の詳細については、AWS の名前空間を参照してください。 型: 文字列 有効値: 文字長が 1 から 250 の有効な名前空間 デフォルト: N/A 必須: はい

名前	説明
`--period VALUE`	取得する統計の詳細度 (秒単位)。期間は少なくとも 60 秒で、60 の倍数であることが必要です。 タイプ: 引数 有効値: 秒数、60 の倍数。 デフォルト: 60 秒 必須：いいえ
`-s, --statistics VALUE1,VALUE2,VALUE3...`	指定したメトリクスで返される統計。 タイプ: 列挙法 有効値: Average、Sum、Maximum、または Minimum デフォルト: N/A 必須: はい
`--start-time VALUE`	返されたデータポイントに許容される最初のタイムスタンプを指定します。開始時間は含まれます。タイムスタンプは、ISO8601 複合形式を使用して指定します。たとえば、日時が 2013 年 7 月 30 日 12:30:00 (PST) の場合、2013-07-30T12:30:00-07:00、または UTC で 2013-07-30T19:30:00Z と表記されます。CloudWatch が返すことのできる最小単位は 1 分です。このため、すべてのタイムスタンプは分単位に切り下げて表示されます。 タイプ: 引数 有効値: タイムゾーンオフセットまたは UTC 表示による、ISO8601 形式で表記された有効なタイムスタンプ デフォルト: 現在時刻の 1 時間前 必須：いいえ

名前	説明
`--unit VALUE`	取得するメトリクスの単位。メトリクスが複数の単位でレポートされる場合がありますが、このオプションを使用すると、特定の単位でメトリクスを取得することができます。単位を要求しない場合、全単位が返されます。メトリクスが 1 つの単位のみでレポートされている場合は効果がありません。 タイプ: 列挙法 有効な値: 以下のいずれかです。 • [秒] • マイクロ秒 • ミリ秒 • バイト • Kilobytes • Megabytes • Gigabytes • Terabytes • Bits • Kilobits • Megabits • Gigabits • Terabits • 割合 (%) • カウント • Bytes/Second • Kilobytes/Second • Megabytes/Second • Gigabytes/Second • Terabytes/Second

名前	説明
	• Bits/Second • Kilobits/Second • Megabits/Second • Gigabits/Second • Terabits/Second • Count/Second • なし デフォルト: N/A 必須：いいえ

一般的なオプション

名前	説明
`--aws-credential-file VALUE`	AWS 認証情報を含むファイルの場所。環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` を使用して、この値を設定できます。環境変数またはパスで指定する認証情報ファイルの場所は、実在のものでなければなりません。存在しない場合、リクエストは失敗します。すべての CloudWatch リクエストに、アクセスキー ID とシークレットアクセスキーを使用して署名する必要があります。 型: 文字列 有効な値: アクセスキー ID とシークレットアクセスキーを含むファイルへの有効なパス。 デフォルト: 設定されている場合は、環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` を使用します。

名前	説明
`-C, --ec2-cert-file-path VALUE`	リクエストに署名するための EC2 証明書ファイルの場所。環境変数 `EC2_CERT` を使用して、この値を指定できます。 型: 文字列 有効な値: Amazon EC2 または AWS Identity and Access Management によって提供される PEM ファイルへの有効なファイルパス。 デフォルト: 設定されている場合は、環境変数 `EC2_CERT` を使用します。
`--connection-timeout VALUE`	接続タイムアウト値 (秒)。 型: 整数 有効な値: 任意の正の整数。 デフォルト: 30
`--delimiter VALUE`	長い結果を区切って表示する際に使用する区切り記号。 型: 文字列 有効な値: 任意の文字列。 デフォルト: コンマ (,)

名前	説明
`--headers`	表形式の結果または区切られた結果を表示する場合に、列ヘッダーを含めます。XML 形式の結果を表示する場合に、サービスリクエストから HTTP ヘッダーを返します (該当する場合)。 タイプ: フラグ 有効な値: 存在する場合は、ヘッダーを表示します。 デフォルト: `--headers` オプションは、デフォルトでオフになっています。
`-I, --access-key-id VALUE`	リクエストの署名で、シークレットキーと組み合わせて使用するアクセスキー ID。これは、—secret-key と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、このオプションは無視されます。CloudWatch へのすべてのリクエストには署名が必要です。署名がないと、リクエストは拒否されます。 型: 文字列 有効な値: 有効なアクセスキー ID。 デフォルト: なし

名前	説明
`-K, --ec2-private-key-file-path VALUE`	リクエストに署名するために使用されるプライベートキー。パブリック/プライベートキーを使用すると、CLI が SOAP を使用します。リクエストは、パブリック証明書とプライベートキーを使用して署名されます。このパラメータは、`EC2_CERT` と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、この値は無視されます。設定されている場合は、環境変数の値 `EC2_PRIVATE_KEY` が使用され、このオプションは指定されません。環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` が設定されている場合、このオプションは無視されます。設定されていない場合は、`--aws-credentials-file` が使用されます。CloudWatch へのすべてのリクエストには署名が必要です。署名がないと、リクエストは拒否されます。 型: 文字列 有効な値: 有効な ASN.1 プライベートキーへのパス。 デフォルト: なし
`--region VALUE`	リクエストの送信先のリージョン。環境変数 `EC2_REGION` を使用して、この値を指定できます。このリージョンは、CloudWatch の呼び出しに使用する URL の作成で使用され、Amazon Web Services (AWS) の有効なリージョンである必要があります。 型: 文字列 有効な値: 任意の AWS リージョン (例: us-east-1) デフォルト: 環境変数 `EC2_REGION` が設定されている場合を除き、us-east-1

名前	説明
`S, --secret-key VALUE`	リクエストの署名で、アクセスキー ID と組み合わせて使用するシークレットアクセスキー。このパラメータは、`--access-key-id` と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、このオプションは無視されます。 型: 文字列 有効な値: アクセスキー ID デフォルト: なし
`--show-empty-fields`	プレースホルダーとして (nil) を使用して空のフィールドを表示し、このデータがリクエストされなかったことを示します。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: デフォルトでは、空のフィールドは表示されません。
`--show-request`	CLI が AWS の呼び出しに使用する URL を表示します。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: false

名前	説明
`--show-table, --show-long, --show-xml, --quiet`	結果の表示形式として、表形式、区切り形式 (長い)、XML 形式、または出力なし (非表示) を指定します。`--show-table` は、固定列幅のフォームにデータのサブネットを表示します。`--show-long` は、返されたすべての値を文字で区切って表示します。`--show-xml` は、サービスから返されたデータをそのままの状態で表示します。`--quiet` は、すべての標準出力を非表示にします。すべてのオプションは相互に排他的で、優先度は、`--show-table` 、`--show-long` 、`--show-xml` 、`--quiet` の順になります。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: `--show-table`
`-U, --url` VALUE	CloudWatch への接続に使用する URL。環境変数 `AWS_CLOUDWATCH_URL` を使用して、この値を設定できます。この値は有効な URL を作成するために `--region` と組み合わせて使用されます。このオプションは、サービス呼び出しの URL をオーバーライドします。 型: 文字列 有効な値:有効な HTTP または HTTPS URL。 デフォルト: 設定されている場合は、`AWS_CLOUDWATCH_URL` で指定した値を使用します。

出力

このコマンドで、以下の値を含む表が返されます。

- Time – メトリクスを取得した時間。

- SampleCount – このカラムの記述はありません。
- Average – 平均値。
- Sum – 合計値。
- Minimum – 最小の監視値。
- Maximum – 最大の監視値。
- Unit – メトリクスの単位。

Amazon CloudWatch CLI は、stderr でエラーを表示します。

例

リクエストの例

この例では、EC2 インスタンス i-c07704a9 の平均値、最小、最大 CPU 使用率を 1 時間単位で返しています。

```
mon-get-stats CPUUtilization --start-time 2013-02-14T23:00:00.000Z --end-time
 2013-03-14T23:00:00.000Z --period 3600 --statistics "Average,Minimum,Maximum" --
namespace "AWS/EC2" --dimensions "InstanceId=i-c07704a9"
```

Samples メトリクスと Average メトリクスの出力 (1 分単位) 例は以下のとおりです。

```
Time                 Samples  Average  Unit
2013-05-19 00:03:00  2.0      0.19     Percent
2013-05-19 00:04:00  2.0      0        Percent
2013-05-19 00:05:00  2.0      0        Percent
2013-05-19 00:06:00  2.0      0        Percent
2013-05-19 00:07:00  2.0      0        Percent
2013-05-19 00:08:00  2.0      0        Percent
2013-05-19 00:09:00  2.0      0        Percent
2013-05-19 00:10:00  2.0      0        Percent
2013-05-19 00:11:00  2.0      0        Percent
2013-05-19 00:12:00  2.0      0.195    Percent
2013-05-19 00:13:00  2.0      0.215    Percent
...
```

リクエストの例

この例では、EC2 フリート全体の CPU 使用率を返しています。

```
mon-get-stats CPUUtilization --start-time 2013-02-14T23:00:00.000Z --end-time
 2013-03-14T23:00:00.000Z --period 3600 --statistics "Average,Minimum,Maximum" --
namespace "AWS/EC2"
```

リクエストの例

この例では、特定ユーザーの MyService のテストスタックに対して行われる平均値、最小、最大リクエスト回数を 1 時間単位で返しています。

```
mon-get-stats RequestCount --start-time 2013-11-24T23:00:00.000Z --end-time
 2013-11-25T23:00:00.000Z --period 3600 --statistics "Average,Minimum,Maximum" --
namespace "MyService" --dimensions "User=SomeUser,Stack=Test"
```

リクエストの例

この例では、「MyService」全体の RequestCount 統計を示しています。

```
mon-get-stats RequestCount --start-time 2013-11-24T23:00:00.000Z
 --end-time 2013-11-25T23:00:00.000Z --period 3600 --statistics
 "Average,Minimum,Maximum,SampleCount" --namespace "MyService"
```

関連トピック

ダウンロード

- コマンドラインインターフェイスをセットアップする

関連アクション

- GetMetricStatistics

関連コマンド

- mon-list-metrics
- mon-describe-alarms

mon-list-metrics

説明

ご使用の AWS アカウントに関連付けられているメトリクスの名前、名前空間、ディメンションを一覧表示します。メトリクスは、名前、名前空間、ディメンションを任意に組み合わせてフィルターできます。フィルターを指定しない場合、その属性に一致する可能性のあるものすべてが返されます。

> **Note**
>
> `mon-put-data` の呼び出しで追加した新規メトリクスの名前、名前空間、ディメンションが、mon-list-metrics コマンドで返されるレポートに表示されるまで最大 15 分かかることがあります。`mon-put-data`、またはその他の方法で置かれたデータポイントが、`mon-get-statistics` で使用できるようになるまでには、5 分かかりません。

構文

`mon-list-metrics [--dimensions "key1=`*`value1`*`,key2=`*`value2`*`..."] [--metric-name `*`value`*`] [--namespace `*`value`*`] [Common Options]`

オプション

名前	説明
-d, --dimensions "`key1=value1,key2=value2...`"	取得するメトリクスのディメンション。ディメンションは 2 つの方法で指定でき、形式を組み合わせて、あるいは互換的に使用することができます。 • 1 ディメンションに 1 つのオプションの場合: --dimensions "key1=value1" --dimensions "key2=value2" • 1 つのオプションにまとめた場合: --dimensions "key1=value1,key2=value2" ディメンションが指定されていない場合、ディメンションのフィルタリングは行われません。その他の

名前	説明
	リクエストされているフィルターはすべて適用されます。リクエストしたメトリクスにはほかのディメンションもあるかもしれませんが、指定したすべてのディメンションを持つメトリクスが結果に表示されます。 タイプ: マップ 有効値: name=value 形式の文字列。ここで、key はディメンション名、value はディメンションの値です。ディメンション名と値は、文字長が 1 から 250 の ANSI 文字列である必要があります。最大 10 ディメンションが許可されています。 デフォルト: N/A 必須：いいえ
`-m, --metric-name VALUE`	メトリクスの名前。メトリクス名を結果に表示するには、それがリクエストされたメトリクス名と完全に一致している必要があります。メトリクス名を指定しないと、フィルター処理は行われません。他のすべてのリクエストされているフィルターが適用されます。 タイプ: シンプル 有効値: 文字長が 1 から 250 の有効なメトリクス名 デフォルト: N/A 必須：いいえ

名前	説明
`-n, --namespace VALUE`	メトリクスのフィルターに使用する名前空間。名前空間の詳細については、AWS の名前空間を参照してください。 型: 文字列 有効値: 文字長が 1 から 250 の有効な名前空間 デフォルト: N/A 必須：いいえ

一般的なオプション

名前	説明
`--aws-credential-file VALUE`	AWS 認証情報を含むファイルの場所。環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` を使用して、この値を設定できます。環境変数またはパスで指定する認証情報ファイルの場所は、実在のものでなければなりません。存在しない場合、リクエストは失敗します。すべての CloudWatch リクエストに、アクセスキー ID とシークレットアクセスキーを使用して署名する必要があります。 型: 文字列 有効な値: アクセスキー ID とシークレットアクセスキーを含むファイルへの有効なパス。 デフォルト: 設定されている場合は、環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` を使用します。
`-C, --ec2-cert-file-path VALUE`	リクエストに署名するための EC2 証明書ファイルの場所。環境変数 `EC2_CERT` を使用して、この値を指定できます。

名前	説明
	型: 文字列 有効な値: Amazon EC2 または AWS Identity and Access Management によって提供される PEM ファイルへの有効なファイルパス。 デフォルト: 設定されている場合は、環境変数 `EC2_CERT` を使用します。
`--connection-timeout VALUE`	接続タイムアウト値 (秒)。 型: 整数 有効な値: 任意の正の整数。 デフォルト: 30
`--delimiter VALUE`	長い結果を区切って表示する際に使用する区切り記号。 型: 文字列 有効な値: 任意の文字列。 デフォルト: コンマ (,)
`--headers`	表形式の結果または区切られた結果を表示する場合に、列ヘッダーを含めます。XML 形式の結果を表示する場合に、サービスリクエストから HTTP ヘッダーを返します (該当する場合)。 タイプ: フラグ 有効な値: 存在する場合は、ヘッダーを表示します。 デフォルト: `--headers` オプションは、デフォルトでオフになっています。

名前	説明
`-I, --access-key-id VALUE`	リクエストの署名で、シークレットキーと組み合わせて使用するアクセスキー ID。これは、—secret-key と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、このオプションは無視されます。CloudWatch へのすべてのリクエストには署名が必要です。署名がないと、リクエストは拒否されます。 型: 文字列 有効な値: 有効なアクセスキー ID。 デフォルト: なし
`-K, --ec2-private-key-file-path VALUE`	リクエストに署名するために使用されるプライベートキー。パブリック/プライベートキーを使用すると、CLI が SOAP を使用します。リクエストは、パブリック証明書とプライベートキーを使用して署名されます。このパラメータは、`EC2_CERT` と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、この値は無視されます。設定されている場合は、環境変数の値 `EC2_PRIVATE_KEY` が使用され、このオプションは指定されません。環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` が設定されている場合、このオプションは無視されます。設定されていない場合は、`--aws-credentials-file` が使用されます。CloudWatch へのすべてのリクエストには署名が必要です。署名がないと、リクエストは拒否されます。 型: 文字列 有効な値: 有効な ASN.1 プライベートキーへのパス。 デフォルト: なし

名前	説明
`--region` VALUE	リクエストの送信先のリージョン。環境変数 `EC2_REGION` を使用して、この値を指定できます。このリージョンは、CloudWatch の呼び出しに使用する URL の作成で使用され、Amazon Web Services (AWS) の有効なリージョンである必要があります。 型: 文字列 有効な値: 任意の AWS リージョン (例: us-east-1) デフォルト: 環境変数 `EC2_REGION` が設定されている場合を除き、us-east-1
`S, --secret-key` VALUE	リクエストの署名で、アクセスキー ID と組み合わせて使用するシークレットアクセスキー。このパラメータは、`--access-key-id` と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、このオプションは無視されます。 型: 文字列 有効な値: アクセスキー ID デフォルト: なし
`--show-empty-fields`	プレースホルダーとして (nil) を使用して空のフィールドを表示し、このデータがリクエストされなかったことを示します。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: デフォルトでは、空のフィールドは表示されません。

名前	説明
`--show-request`	CLI が AWS の呼び出しに使用する URL を表示します。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: false
`--show-table, --show-long, --show-xml, --quiet`	結果の表示形式として、表形式、区切り形式 (長い)、XML 形式、または出力なし (非表示) を指定します。`--show-table` は、固定列幅のフォームにデータのサブネットを表示します。`--show-long` は、返されたすべての値を文字で区切って表示します。`--show-xml` は、サービスから返されたデータをそのままの状態で表示します。`--quiet` は、すべての標準出力を非表示にします。すべてのオプションは相互に排他的で、優先度は、`--show-table` 、`--show-long` 、`--show-xml` 、`--quiet` の順になります。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: `--show-table`

名前	説明
`-U, --url` VALUE	CloudWatch への接続に使用する URL。環境変数 `AWS_CLOUDWATCH_URL` を使用して、この値を設定できます。この値は有効な URL を作成するために `--region` と組み合わせて使用されます。このオプションは、サービス呼び出しの URL をオーバーライドします。 型: 文字列 有効な値:有効な HTTP または HTTPS URL。 デフォルト: 設定されている場合は、`AWS_CLOUDWATCH_URL` で指定した値を使用します。

出力

このコマンドで、以下の値を含む表が返されます。

- Metric Name – このメトリクスに付けられたメトリクス名
- Namespace – このメトリクスに関連付けられている名前空間
- Dimensions – このメトリクスに関連付けられているディメンションの名前と値。

Amazon CloudWatch CLI は、stderr でエラーを表示します。

例

リクエストの例

この例では、全メトリクスの一覧が返されます。

```
mon-list-metrics
```

mon-list-metrics への呼び出しの出力例は以下のとおりです。

```
Metric Name                  Namespace  Dimensions
```

```
CPUUtilization                AWS/EC2    {InstanceId=i-e7e48a8e}
CPUUtilization                AWS/EC2    {InstanceId=i-231d744a}
CPUUtilization                AWS/EC2    {InstanceId=i-22016e4b}
CPUUtilization                AWS/EC2    {InstanceId=i-b0345cd9}
CPUUtilization                AWS/EC2    {InstanceId=i-539dff3a}
CPUUtilization                AWS/EC2    {InstanceId=i-af3544c6}
CPUUtilization                AWS/EC2    {InstanceId=i-d4f29ebd}
CPUUtilization                AWS/EC2    {ImageId=ami-de4daab7}
...
```

リクエストの例

次の例では、指定した名前を持つメトリクスを一覧表示します。

```
mon-list-metrics --metric-name RequestCount
```

リクエストの例

次の例では、指定した名前空間に属するメトリクスを一覧表示します。

```
mon-list-metrics --namespace MyService
```

リクエストの例

次の例では、指定したディメンション名と値を持つメトリクスを一覧表示します。

```
mon-list-metrics --dimensions "User=SomeUser,Stack=Test"
```

関連トピック

ダウンロード

- コマンドラインインターフェイスをセットアップする

関連アクション

- ListMetrics

関連コマンド

- mon-describe-alarms

mon-put-data

説明

指定したメトリクスにメトリクスデータポイントを追加します。この呼び出しにより、生値または特定のメトリクス名の有効な統計値のデータが時系列で示されます。一度に一つのデータポイントの入力に対応しています。

> **Note**
>
> `mon-put-data` コマンドで新しいメトリクスを作成した場合、`mon-get-stats` コマンドを用いてその新規メトリクスの統計を取得できるようになるまで最大 2 分かかります。ただし、`mon-list-metrics` コマンドを用いて取得したメトリクスのリストに新規メトリクスが表示されるまで最大 15 分かかることがあります。

構文

```
mon-put-data --metric-name value[--namespace value [--
dimensions "key1=value1,key2=value2..."] [--statisticValues
"key1=value1,key2=value2..."] [--timestamp value] [--unit value] [--value
value] [Common Options]
```

オプション

名前	説明
-d, --dimensions "key1=value1、key2=value2..."	メトリクスデータを一意に識別するディメンション。ディメンションは 2 つの方法で指定でき、形式を組み合わせて、あるいは互換的に使用することができます。 • 1 ディメンションに 1 つのオプションの場合: --dimensions "key1=value1" --dimensions "key2=value2"

名前	説明
	• 1 つのオプションにまとめた場合: --dimensions "key1=value1,key2=value2" タイプ: マップ 有効値: name=value 形式の文字列。ここで、key はディメンション名、value はディメンションの値です。ディメンション名と値は、文字長が 1 から 250 の ANSI 文字列である必要があります。最大 10 ディメンションが許可されています。 デフォルト: N/A 必須：いいえ
`-m, --metric-name VALUE1,VALUE2,VALUE3...`	メトリクスの名前。 型: 文字列 有効値: 1 から 250 文字の有効なメトリクス名 デフォルト: N/A 必須: はい
`n, --namespace VALUE`	メトリクスの名前空間。名前空間の詳細については、AWS の名前空間を参照してください。 型: 文字列 有効値: 文字長が 1 から 250 の ANSI 文字列 デフォルト: N/A 必須: はい

名前	説明
`-s, --statistic Values "key1=value1,key2=value2..."`	指定したタイムスタンプとメトリクスに関して保存する統計。このオプションでは `--value` しか使用できません。少なくとも `--statisticValue` または `--value` のいずれか指定する必要があります。 タイプ: マップ 有効値: すべての統計名 (SampleCount、Sum、Maximum、Minimum) のすべての倍精度浮動小数点数が含まれる文字列。これらの値はすべて、1E-130 から 1E130 の間の値である必要があります。 デフォルト: N/A 必須: はい
`-t, --timestamp VALUE`	メトリクスで記録するデータポイントまたは監視のタイムスタンプ。タイムスタンプは、ISO8601 複合形式を使用して指定します。たとえば、日時が 2013 年 7 月 30 日 12:30:00 (PST) の場合、2013-07-30T12:30:00-07:00、または UTC で 2013-07-30T19:30:00Z と表記されます。 タイプ: シンプル 有効値: タイムゾーンオフセットまたは UTC 表示による、ISO8601 形式で表記された有効なタイムスタンプ デフォルト: 現在の UTC 時間 必須：いいえ

名前	説明
`-u, --unit VALUE`	メトリクスの単位。 タイプ: 列挙法 有効な値: 以下のいずれかです。 • [秒] • マイクロ秒 • ミリ秒 • バイト • Kilobytes • Megabytes • Gigabytes • Terabytes • Bits • Kilobits • Megabits • Gigabits • Terabits • 割合 (%) • カウント • Bytes/Second • Kilobytes/Second • Megabytes/Second • Gigabytes/Second • Terabytes/Second • Bits/Second • Kilobits/Second • Megabits/Second • Gigabits/Second • Terabits/Second

名前	説明
	• Count/Second • なし デフォルト: N/A 必須：いいえ
`-v, --value VALUE`	記録する単一の値。値は、SampleCount=1、Sum=VALUE、Minimum=VALUE、Maximum=VALUE という形式の統計セットに変換されます。このオプションには `--statisticValues` は含まれません。 タイプ: シンプル 有効値: すべての値は、1E-130 から 1E130 の間の数値である必要があります。 デフォルト: N/A 必須: はい

一般的なオプション

名前	説明
`--aws-credential-file VALUE`	AWS 認証情報を含むファイルの場所。環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` を使用して、この値を設定できます。環境変数またはパスで指定する認証情報ファイルの場所は、実在のものでなければなりません。存在しない場合、リクエストは失敗します。すべての CloudWatch リクエストに、アクセスキー ID とシークレットアクセスキーを使用して署名する必要があります。 型: 文字列

名前	説明
	有効な値: アクセスキー ID とシークレットアクセスキーを含むファイルへの有効なパス。 デフォルト: 設定されている場合は、環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` を使用します。
`-C, --ec2-cert-file-path VALUE`	リクエストに署名するための EC2 証明書ファイルの場所。環境変数 `EC2_CERT` を使用して、この値を指定できます。 型: 文字列 有効な値: Amazon EC2 または AWS Identity and Access Management によって提供される PEM ファイルへの有効なファイルパス。 デフォルト: 設定されている場合は、環境変数 `EC2_CERT` を使用します。
`--connection-timeout VALUE`	接続タイムアウト値 (秒)。 型: 整数 有効な値: 任意の正の整数。 デフォルト: 30
`--delimiter VALUE`	長い結果を区切って表示する際に使用する区切り記号。 型: 文字列 有効な値: 任意の文字列。 デフォルト: コンマ (,)

名前	説明
`--headers`	表形式の結果または区切られた結果を表示する場合に、列ヘッダーを含めます。XML 形式の結果を表示する場合に、サービスリクエストから HTTP ヘッダーを返します (該当する場合)。 タイプ: フラグ 有効な値: 存在する場合は、ヘッダーを表示します。 デフォルト: `--headers` オプションは、デフォルトでオフになっています。
`-I, --access-key-id VALUE`	リクエストの署名で、シークレットキーと組み合わせて使用するアクセスキー ID。これは、—secret-key と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、このオプションは無視されます。CloudWatch へのすべてのリクエストには署名が必要です。署名がないと、リクエストは拒否されます。 型: 文字列 有効な値: 有効なアクセスキー ID。 デフォルト: なし

名前	説明
`-K, --ec2-private-key-file-path VALUE`	リクエストに署名するために使用されるプライベートキー。パブリック/プライベートキーを使用すると、CLI が SOAP を使用します。リクエストは、パブリック証明書とプライベートキーを使用して署名されます。このパラメータは、`EC2_CERT` と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、この値は無視されます。設定されている場合は、環境変数の値 `EC2_PRIVATE_KEY` が使用され、このオプションは指定されません。環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` が設定されている場合、このオプションは無視されます。設定されていない場合は、`--aws-credentials-file` が使用されます。CloudWatch へのすべてのリクエストには署名が必要です。署名がないと、リクエストは拒否されます。 型: 文字列 有効な値: 有効な ASN.1 プライベートキーへのパス。 デフォルト: なし
`--region VALUE`	リクエストの送信先のリージョン。環境変数 `EC2_REGION` を使用して、この値を指定できます。このリージョンは、CloudWatch の呼び出しに使用する URL の作成で使用され、Amazon Web Services (AWS) の有効なリージョンである必要があります。 型: 文字列 有効な値: 任意の AWS リージョン (例: us-east-1) デフォルト: 環境変数 `EC2_REGION` が設定されている場合を除き、us-east-1

名前	説明
`S, --secret-key VALUE`	リクエストの署名で、アクセスキー ID と組み合わせて使用するシークレットアクセスキー。このパラメータは、`--access-key-id` と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、このオプションは無視されます。 型: 文字列 有効な値: アクセスキー ID デフォルト: なし
`--show-empty-fields`	プレースホルダーとして (nil) を使用して空のフィールドを表示し、このデータがリクエストされなかったことを示します。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: デフォルトでは、空のフィールドは表示されません。
`--show-request`	CLI が AWS の呼び出しに使用する URL を表示します。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: false

名前	説明
`--show-table, --show-long, --show-xml, --quiet`	結果の表示形式として、表形式、区切り形式 (長い)、XML 形式、または出力なし (非表示) を指定します。`--show-table` は、固定列幅のフォームにデータのサブネットを表示します。`--show-long` は、返されたすべての値を文字で区切って表示します。`--show-xml` は、サービスから返されたデータをそのままの状態で表示します。`--quiet` は、すべての標準出力を非表示にします。すべてのオプションは相互に排他的で、優先度は、`--show-table` 、`--show-long` 、`--show-xml` 、`--quiet` の順になります。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: `--show-table`
`-U, --url` VALUE	CloudWatch への接続に使用する URL。環境変数 `AWS_CLOUDWATCH_URL` を使用して、この値を設定できます。この値は有効な URL を作成するために `--region` と組み合わせて使用されます。このオプションは、サービス呼び出しの URL をオーバーライドします。 型: 文字列 有効な値:有効な HTTP または HTTPS URL。 デフォルト: 設定されている場合は、`AWS_CLOUDWATCH_URL` で指定した値を使用します。

出力

このコマンドにより、メトリクスデータポイントがメトリクスに追加されます。

Amazon CloudWatch CLI は、stderr でエラーを表示します。

例

リクエストの例

この例では、RequestCount 名前空間に MyService の統計データを置いています。メトリクスにはディメンションがないため、サービス全体の RequestCount を表しています。測定値は事前集約された statisticValue で、前の 5 つの測定値を表します。その最大値は 70、最小値は 30、合計は 250 でした。

```
mon-put-data --metric-name RequestCount --namespace "MyService"
 --timestamp 2013-11-25T00:00:00.000Z --statisticValues
 "Sum=250,Minimum=30,Maximum=70,SampleCount=5"
```

リクエストの例

この例では、RequestCount 名前空間にユーザー固有の MyService テストデータを置いています。上記の例で使用されたサービス規模のメトリクスとこの特定のメトリクスを区別するため、ユーザー名とスタック名がディメンションとして保存されています。

```
mon-put-data --metric-name RequestCount --namespace "MyService" --dimensions
 "User=SomeUser,Stack=Test" --timestamp 2013-11-25T00:00:00.000Z --value 50
```

関連トピック

ダウンロード

- コマンドラインインターフェイスをセットアップする

関連アクション

- PutMetricData

関連コマンド

- mon-put-metric-alarm

mon-put-metric-alarm

説明

アラームを作成または更新し、指定された CloudWatch メトリクスにそのアラームを関連付けます。また、このコマンドを使用して、1 つのアラームに 1 つ以上の Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS) リソースを関連付けることもできます。

この操作でアラームを作成するとすぐ、アラームの状態が INSUFFICIENT_DATA になります。アラームは評価され、その StateValue は適切に設定されます。その後、StateValue と関連付けられたアクションが実行されます。

> **Note**
>
> 既存のアラームを更新しても、StateValue は変更されません。

構文

mon-put-metric-alarm AlarmName --comparison-operator *value* --evaluation-periods *value* --metric-name *value* --namespace *value* --period *value* [--statistic *value*] [--extendedstatistic *value*] --threshold *value* [--actions-enabled *value*] [--alarm-actions *value*[,*value*...]] [--alarm-description *value*] [--dimensions "key1=*value1*,key2=*value2*..."] [--ok-actions *value*[,*value*...]] [--unit *value*] [--insufficient-data-actions *value*[,*value*...]] [Common Options]

オプション

名前	説明
`AlarmName`	更新または作成するアラームの名前。名前は AWS アカウント内で一意でなければなりません。この値は `--alarm-name` を使用して設定することもできます。 タイプ: 引数 有効値: UTF-8 文字列。

名前	説明
	デフォルト: N/A 必須: はい
`--actions-enabled VALUE`	アラームの状態が変わったときにアクションを実行するかどうかを指定します。 型: ブール値 有効値: True または False デフォルト: True 必須：いいえ

名前	説明
`--alarm-actions VALUE1,VALUE2,VALUE3...`	このアラームが ALARM 以外の状態から ALARM 状態に移行したときに実行するアクション (最大 5 個)。各アクションは Amazon リソースネーム (ARN) として指定されます。アラームアクションを使用して、Amazon SNS トピックへの公開、Amazon EC2 Auto Scaling ポリシーのアクティブ化、または Amazon EC2 インスタンスの停止、終了、復旧を行うことができます。 **Note** AWS Identity and Access Management (IAM) アカウントを使用してアラームを作成または変更する場合、次の Amazon EC2 の許可が必要です。 • Amazon EC2 インスタンスステータスメトリクスに対するすべてのアラーム向けの `ec2:DescribeInstanceStatus` と `ec2:DescribeInstances` • `ec2:StopInstances` 。停止アクションを含むアラーム用。 • `ec2:TerminateInstances` 。終了アクションを含むアラーム用。 • `ec2:DescribeInstanceRecoveryAttribute` と `ec2:RecoverInstances` 。復旧アクションを含むアラーム用。 Amazon CloudWatch に対する読み取り/書き込み権限は持っているが、Amazon EC2 に対する権限を持っていない場合でも、アラームを作成できますが、停止または終了アクションは Amazon EC2 インスタンスでは実行されません。ただし、関連付けられている Amazon EC2 API の使用許可が後で付与される場合、以前に

名前	説明
	作成したアラームアクションは実行されるようになります。IAM のアクセス許可の詳細については、IAM ユーザーガイドの「アクセス許可とポリシー」を参照してください。 IAM ロール (Amazon EC2 インスタンスプロファイルなど) を使用している場合、アラームのアクションを使用してインスタンスを停止または終了することはできません。ただし、アラームの状態を確認して、Amazon SNS 通知や Amazon EC2 Auto Scaling ポリシーなど、その他のアクションを実行することはできます。 AWS Security Token Service (AWS STS) で付与された一時的なセキュリティ認証情報を使用している場合、アラームのアクションを使用して Amazon EC2 インスタンスを停止または終了することはできません。 型: 文字列 有効な値: Amazon SNS トピックの ARN、Auto Scaling ポリシー、または Amazon EC2 インスタンスを停止、終了、回復するための ARN。 デフォルト: N/A 必須：いいえ
`--alarm-description VALUE`	アラームの説明。 型: 文字列 有効値: 文字長が 1 から 255 の Unicode 文字列 デフォルト: N/A 必須：いいえ

名前	説明
`--comparison-operator VALUE`	データポイントとしきい値の比較に使用する比較演算子。 タイプ: 列挙法 有効値: GreaterThanOrEqualToThreshold、GreaterThanThreshold、LessThanThreshold、または LessThanOrEqualToThreshold のいずれか デフォルト: N/A 必須: はい
`--dimensions "key1=value1,key2=value2..."`	作成するアラームに関連して作成するメトリクスのディメンション。ディメンションは 2 つの方法で指定でき、形式を組み合わせて、あるいは互換的に使用することができます。 • 1 ディメンションに 1 つのオプションの場合: --dimensions "key1=value1" --dimensions "key2=value2" • 1 つのオプションにまとめた場合: --dimensions "key1=value1,key2=value2" タイプ: マップ 有効値: name=value 形式の文字列。ここで、key はディメンション名、value はディメンションの値です。ディメンション名と値は、文字長が 1 から 250 の ANSI 文字列である必要があります。最大 10 ディメンションが許可されています。 デフォルト: N/A 必須：いいえ

名前	説明
`--evaluation-periods VALUE`	アラームのステータスを決定するためにメトリクスの値としきい値を比較する連続した期間の数。 型: 整数 有効値: 0 より大きい数値 デフォルト: N/A 必須: はい
`--metric-name VALUE`	アラームを設置するメトリクスの名前。 タイプ: 引数 有効値: 文字長が 1 から 250 の ANSI 文字列 デフォルト: N/A 必須: はい
`--namespace VALUE`	アラームを設置するメトリクスの名前空間。名前空間の詳細については、AWS の名前空間を参照してください。 型: 文字列 有効値: 文字長が 1 から 250 の ANSI 文字列 デフォルト: N/A 必須: はい

名前	説明
`--ok-actions VALUE1,VALUE2,VALUE3...`	このアラームが OK 以外の状態から OK 状態に移行したときに実行するアクション (最大 5 個)。各アクションは Amazon リソースネーム (ARN) として指定されます。 型: 文字列 有効値: 有効な ARN 識別子 デフォルト: N/A 必須：いいえ
`--period VALUE`	アラームを設置するメトリクスの期間 (秒単位)。 タイプ: 引数 有効値: 秒数、60 の倍数。 デフォルト: N/A 必須: はい
`--statistic VALUE`	アラームを設置するメトリクスの統計。 タイプ: 列挙法 有効値: SampleCount、Average、Sum、Minimum、または Maximum デフォルト: N/A 必須: --statistic または --extendedstatistic のどちらかを指定する必要があります。

名前	説明
`--extendedstatistic VALUE`	アラームを設置するメトリクスのパーセンタイル統計。 型: 文字列 有効な値: 小数点以下 2 桁までの任意のパーセンタイル (p95.45 など)。 デフォルト: N/A 必須: --statistic または --extendedstatistic のどちらかを指定する必要があります。
`--threshold VALUE`	アラームの状態を決定するためにデータポイントと比較するしきい値。 型: 倍精度 有効値: 倍精度浮動小数点数。これらの値はすべて、1E-130 から 1E130 の間の数値である必要があります。 デフォルト: N/A 必須: はい

名前	説明
`--unit VALUE`	アラームを設置するメトリクスの単位。 タイプ: 列挙法 有効な値: 以下のいずれかです。 • [秒] • マイクロ秒 • ミリ秒 • バイト • Kilobytes • Megabytes • Gigabytes • Terabytes • Bits • Kilobits • Megabits • Gigabits • Terabits • 割合 (%) • カウント • Bytes/Second • Kilobytes/Second • Megabytes/Second • Gigabytes/Second • Terabytes/Second • Bits/Second • Kilobits/Second • Megabits/Second • Gigabits/Second • Terabits/Second

名前	説明
	• Count/Second • なし デフォルト: N/A 必須：いいえ
`--insufficient-data-actions VALUE1,VALUE2,VALUE3...`	このアラームが INSUFFICIENT_DATA 以外の状態から INSUFFICIENT_DATA 状態に移行したときに実行するアクション (最大 5 個)。各アクションは Amazon リソースネーム (ARN) として指定されます。 型: 文字列 有効値: 有効な ARN 識別子 デフォルト: N/A 必須：いいえ

一般的なオプション

名前	説明
`--aws-credential-file VALUE`	AWS 認証情報を含むファイルの場所。環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` を使用して、この値を設定できます。環境変数またはパスで指定する認証情報ファイルの場所は、実在のものでなければなりません。存在しない場合、リクエストは失敗します。すべての CloudWatch リクエストに、アクセスキー ID とシークレットアクセスキーを使用して署名する必要があります。 型: 文字列

名前	説明
	有効な値: アクセスキー ID とシークレットアクセスキーを含むファイルへの有効なパス。 デフォルト: 設定されている場合は、環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` を使用します。
`-C, --ec2-cert-file-path VALUE`	リクエストに署名するための EC2 証明書ファイルの場所。環境変数 `EC2_CERT` を使用して、この値を指定できます。 型: 文字列 有効な値: Amazon EC2 または AWS Identity and Access Management によって提供される PEM ファイルへの有効なファイルパス。 デフォルト: 設定されている場合は、環境変数 `EC2_CERT` を使用します。
`--connection-timeout VALUE`	接続タイムアウト値 (秒)。 型: 整数 有効な値: 任意の正の整数。 デフォルト: 30
`--delimiter VALUE`	長い結果を区切って表示する際に使用する区切り記号。 型: 文字列 有効な値: 任意の文字列。 デフォルト: コンマ (,)

名前	説明
`--headers`	表形式の結果または区切られた結果を表示する場合に、列ヘッダーを含めます。XML 形式の結果を表示する場合に、サービスリクエストから HTTP ヘッダーを返します (該当する場合)。 タイプ: フラグ 有効な値: 存在する場合は、ヘッダーを表示します。 デフォルト: `--headers` オプションは、デフォルトでオフになっています。
`-I, --access-key-id VALUE`	リクエストの署名で、シークレットキーと組み合わせて使用するアクセスキー ID。これは、—secret-key と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、このオプションは無視されます。CloudWatch へのすべてのリクエストには署名が必要です。署名がないと、リクエストは拒否されます。 型: 文字列 有効な値: 有効なアクセスキー ID。 デフォルト: なし

名前	説明
`-K, --ec2-private-key-file-path VALUE`	リクエストに署名するために使用されるプライベートキー。パブリック/プライベートキーを使用すると、CLI が SOAP を使用します。リクエストは、パブリック証明書とプライベートキーを使用して署名されます。このパラメータは、`EC2_CERT` と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、この値は無視されます。設定されている場合は、環境変数の値 `EC2_PRIVATE_KEY` が使用され、このオプションは指定されません。環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` が設定されている場合、このオプションは無視されます。設定されていない場合は、`--aws-credentials-file` が使用されます。CloudWatch へのすべてのリクエストには署名が必要です。署名がないと、リクエストは拒否されます。 型: 文字列 有効な値: 有効な ASN.1 プライベートキーへのパス。 デフォルト: なし
`--region VALUE`	リクエストの送信先のリージョン。環境変数 `EC2_REGION` を使用して、この値を指定できます。このリージョンは、CloudWatch の呼び出しに使用する URL の作成で使用され、Amazon Web Services (AWS) の有効なリージョンである必要があります。 型: 文字列 有効な値: 任意の AWS リージョン (例: us-east-1) デフォルト: 環境変数 `EC2_REGION` が設定されている場合を除き、us-east-1

名前	説明
`S, --secret-key VALUE`	リクエストの署名で、アクセスキー ID と組み合わせて使用するシークレットアクセスキー。このパラメータは、`--access-key-id` と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、このオプションは無視されます。 型: 文字列 有効な値: アクセスキー ID デフォルト: なし
`--show-empty-fields`	プレースホルダーとして (nil) を使用して空のフィールドを表示し、このデータがリクエストされなかったことを示します。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: デフォルトでは、空のフィールドは表示されません。
`--show-request`	CLI が AWS の呼び出しに使用する URL を表示します。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: false

名前	説明
`--show-table, --show-long, --show-xml, --quiet`	結果の表示形式として、表形式、区切り形式 (長い)、XML 形式、または出力なし (非表示) を指定します。`--show-table` は、固定列幅のフォームにデータのサブネットを表示します。`--show-long` は、返されたすべての値を文字で区切って表示します。`--show-xml` は、サービスから返されたデータをそのままの状態で表示します。`--quiet` は、すべての標準出力を非表示にします。すべてのオプションは相互に排他的で、優先度は、`--show-table` 、`--show-long` 、`--show-xml` 、`--quiet` の順になります。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: `--show-table`
`-U, --url` VALUE	CloudWatch への接続に使用する URL。環境変数 `AWS_CLOUDWATCH_URL` を使用して、この値を設定できます。この値は有効な URL を作成するために `--region` と組み合わせて使用されます。このオプションは、サービス呼び出しの URL をオーバーライドします。 型: 文字列 有効な値:有効な HTTP または HTTPS URL。 デフォルト: 設定されている場合は、`AWS_CLOUDWATCH_URL` で指定した値を使用します。

出力

このコマンドで、指定したメトリクスに関連付けられるアラームを作成または更新します。

Amazon CloudWatch CLI は、stderr でエラーを表示します。

例

リクエストの例

次の例で作成するアラームでは、EC2 インスタンスの CPU 使用率が 1 分単位の期間を 3 つ連続して 90% を超えたときに、トピックにメッセージを発行します。

```
mon-put-metric-alarm --alarm-name my-alarm --alarm-description "some desc" \
--metric-name CPUUtilization --namespace AWS/EC2 --statistic Average  --period 60 --
threshold 90 \
--comparison-operator GreaterThanThreshold  --dimensions InstanceId=i-abcdef --
evaluation-periods 3  \
--unit Percent --alarm-actions arn:aws:sns:us-east-1:1234567890:my-topic
```

関連トピック

ダウンロード

- コマンドラインインターフェイスをセットアップする

関連アクション

- PutMetricAlarm

関連コマンド

- mon-put-data

mon-set-alarm-state

説明

指定したアラームのアラーム状態を一時的に変更します。次の期間では、アラームは本来の状態に設定されます。

構文

mon-set-alarm-state AlarmName --state-reason *value* --state-value *value* [--state-reason-data *value*] [Common Options]

オプション

名前	説明
AlarmName	アラームの名前。この値は --alarm-name を使用して設定することもできます。 タイプ: 引数 有効値: UTF-8 文字列。 デフォルト: N/A 必須: はい
--state-reason VALUE	アラームがこの状態に設定された理由 (人間が判読可能な形式)。 型: 文字列 有効値: 1 から 1023 文字の UTF-8 文字列 デフォルト: N/A 必須: はい
--state-reason-data VALUE	アラームがこの状態に設定された理由。このデータはマシンで読み取り可能な JSON 用です。 型: 文字列 有効値: マシンで読み取り可能な 1 から 4000 文字の有効な JSON 文字列 デフォルト: N/A

名前	説明
	必須：いいえ
`--state-value VALUE`	アラームを設定する状態。 タイプ: 列挙法 有効値: ALARM、OK、または INSUFFICIENT_DATA デフォルト: N/A 必須: はい

一般的なオプション

名前	説明
`--aws-credential-file VALUE`	AWS 認証情報を含むファイルの場所。環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` を使用して、この値を設定できます。環境変数またはパスで指定する認証情報ファイルの場所は、実在のものでなければなりません。存在しない場合、リクエストは失敗します。すべての CloudWatch リクエストに、アクセスキー ID とシークレットアクセスキーを使用して署名する必要があります。 型: 文字列 有効な値: アクセスキー ID とシークレットアクセスキーを含むファイルへの有効なパス。 デフォルト: 設定されている場合は、環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` を使用します。
`-C, --ec2-cert-file-path VALUE`	リクエストに署名するための EC2 証明書ファイルの場所。環境変数 `EC2_CERT` を使用して、この値を指定できます。

名前	説明
	型: 文字列 有効な値: Amazon EC2 または AWS Identity and Access Management によって提供される PEM ファイルへの有効なファイルパス。 デフォルト: 設定されている場合は、環境変数 `EC2_CERT` を使用します。
`--connection-timeout VALUE`	接続タイムアウト値 (秒)。 型: 整数 有効な値: 任意の正の整数。 デフォルト: 30
`--delimiter VALUE`	長い結果を区切って表示する際に使用する区切り記号。 型: 文字列 有効な値: 任意の文字列。 デフォルト: コンマ (,)
`--headers`	表形式の結果または区切られた結果を表示する場合に、列ヘッダーを含めます。XML 形式の結果を表示する場合に、サービスリクエストから HTTP ヘッダーを返します (該当する場合)。 タイプ: フラグ 有効な値: 存在する場合は、ヘッダーを表示します。 デフォルト: `--headers` オプションは、デフォルトでオフになっています。

名前	説明
`-I, --access-key-id VALUE`	リクエストの署名で、シークレットキーと組み合わせて使用するアクセスキー ID。これは、—secret-key と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、このオプションは無視されます。CloudWatch へのすべてのリクエストには署名が必要です。署名がないと、リクエストは拒否されます。 型: 文字列 有効な値: 有効なアクセスキー ID。 デフォルト: なし
`-K, --ec2-private-key-file-path VALUE`	リクエストに署名するために使用されるプライベートキー。パブリック/プライベートキーを使用すると、CLI が SOAP を使用します。リクエストは、パブリック証明書とプライベートキーを使用して署名されます。このパラメータは、`EC2_CERT` と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、この値は無視されます。設定されている場合は、環境変数の値 `EC2_PRIVATE_KEY` が使用され、このオプションは指定されません。環境変数 `AWS_CREDENTIAL_FILE` が設定されている場合、このオプションは無視されます。設定されていない場合は、`--aws-credentials-file` が使用されます。CloudWatch へのすべてのリクエストには署名が必要です。署名がないと、リクエストは拒否されます。 型: 文字列 有効な値: 有効な ASN.1 プライベートキーへのパス。 デフォルト: なし

名前	説明
`--region` VALUE	リクエストの送信先のリージョン。環境変数 `EC2_REGION` を使用して、この値を指定できます。このリージョンは、CloudWatch の呼び出しに使用する URL の作成で使用され、Amazon Web Services (AWS) の有効なリージョンである必要があります。 型: 文字列 有効な値: 任意の AWS リージョン (例: us-east-1) デフォルト: 環境変数 `EC2_REGION` が設定されている場合を除き、us-east-1
`S, --secret-key` VALUE	リクエストの署名で、アクセスキー ID と組み合わせて使用するシークレットアクセスキー。このパラメータは、`--access-key-id` と組み合わせて使用する必要があります。単独で使用すると、このオプションは無視されます。 型: 文字列 有効な値: アクセスキー ID デフォルト: なし
`--show-empty-fields`	プレースホルダーとして (nil) を使用して空のフィールドを表示し、このデータがリクエストされなかったことを示します。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: デフォルトでは、空のフィールドは表示されません。

名前	説明
`--show-request`	CLI が AWS の呼び出しに使用する URL を表示します。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: false
`--show-table, --show-long, --show-xml, --quiet`	結果の表示形式として、表形式、区切り形式 (長い)、XML 形式、または出力なし (非表示) を指定します。`--show-table` は、固定列幅のフォームにデータのサブネットを表示します。`--show-long` は、返されたすべての値を文字で区切って表示します。`--show-xml` は、サービスから返されたデータをそのままの状態で表示します。`--quiet` は、すべての標準出力を非表示にします。すべてのオプションは相互に排他的で、優先度は、`--show-table` 、`--show-long` 、`--show-xml` 、`--quiet` の順になります。 タイプ: フラグ 有効な値: なし デフォルト: `--show-table`

名前	説明
`-U, --url VALUE`	CloudWatch への接続に使用する URL。環境変数 `AWS_CLOUDWATCH_URL` を使用して、この値を設定できます。この値は有効な URL を作成するために `--region` と組み合わせて使用されます。このオプションは、サービス呼び出しの URL をオーバーライドします。 型: 文字列 有効な値:有効な HTTP または HTTPS URL。 デフォルト: 設定されている場合は、`AWS_CLOUDWATCH_URL` で指定した値を使用します。

出力

このコマンドでは、アラームの状態を一時的に変更し、リクエストが正常に行われた場合は `OK-Set alarm state value` を表示します。

Amazon CloudWatch CLI は、stderr でエラーを表示します。

例

リクエストの例

この例では、my-alarm というアラームの状態を OK に設定しています。

```
mon-set-alarm-state --alarm-name my-alarm --state OK
```

関連トピック

ダウンロード

- コマンドラインインターフェイスをセットアップする

関連アクション

- SetAlarmState

関連コマンド

- mon-describe-alarms

mon-version

説明

CloudWatch CLI および API のバージョン番号を出力します。

構文

mon-version

出力

このコマンドは、CloudWatch CLI および API のバージョン番号を表示します。

Amazon CloudWatch CLI は、stderr でエラーを表示します。

例

リクエストの例

この例では、CLI と API のバージョンを示しています。

```
mon-version
```

以下は出力例です。

```
Amazon CloudWatch CLI version 1.0.12.1 (API 2010-08-01)
```

関連トピック

ダウンロード

- コマンドラインインターフェイスをセットアップする

関連コマンド (--extendedstatistic パラメータを参照)

- mon-cmd

ドキュメント履歴

以下の表は、Amazon CloudWatch CLI リファレンスの重要な変更点をまとめたものです。このドキュメントは、2010 年 8 月 1 日リリースの CloudWatch に関連しています。最終更新日は 2017 年 11 月 7 日です。

変更	説明	リリース日
Amazon CloudWatch CLI の内容を、Amazon CloudWatch ユーザーガイドから新しいガイドに移動	Amazon CloudWatch CLI の内容を、Amazon CloudWatch ユーザーガイドからこちらの新しいガイドに移動しました。Amazon CloudSearch デベロッパーガイドの例を更新して AWS CLI を使用するようにしました。このクロスサービスの CLI では、インストールが簡素化され、設定とコマンドライン構文が統一されています。AWS CLI は、Linux/Unix、Windows、および Mac でサポートされています。このガイドに示す CLI の例は、新しい AWS CLI 使用することができるように更新されました。 新しい AWS CLI をインストールして設定する方法については、AWS Command Line Interface ユーザーガイドの「AWS Command Line Interface のセットアップ」を参照してください。	2014 年 2 月 28 日
CloudWatch CLI は廃止されました。	2017 年 11 月 7 日時点で、CloudWatch コマンドラインインターフェイスはサポート対象外となり、新しい機能の追加はありません。ダウンロードすることはできません。	2017 年 11 月 7 日